

四國
大觀

香川縣之部

147
2/0

147-210



1200800111741



Kodak Gray Scale

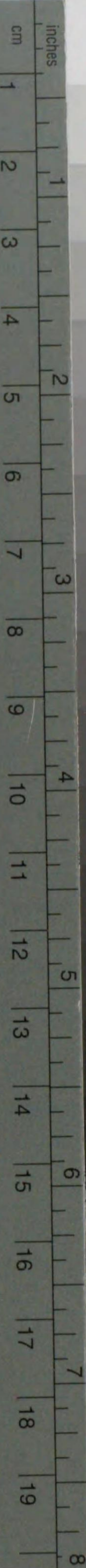
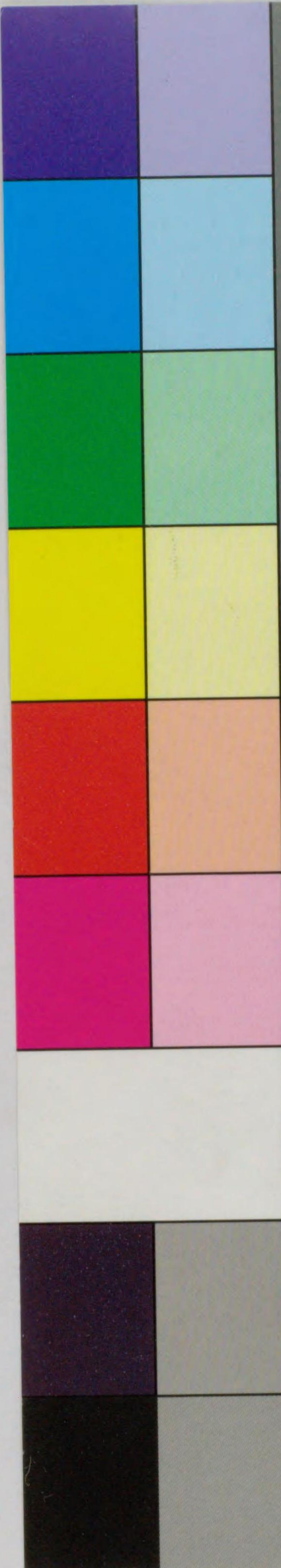
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



四國
大觀

香川縣之部

附愛媛縣壹部



四國
大觀
香川縣之部
附愛媛縣壹部



147-210

寫眞の部

- 金刀比羅御本社
- 金刀比羅櫻馬場
- 金刀比羅寶物館
- 普通寺御影堂
- 普通寺五重大塔
- 普通寺仁王門
- 彌谷寺多寶塔
- 彌谷寺本尊堂
- 彌谷寺全景
- 琴彈神社
- 琴彈公園有明
- 濱琴彈公園琴柱池
- 仙龍寺全景
- 仙龍寺鐘守堂
- 仙龍寺八丁坂
- 曼荼羅寺本堂
- 三角寺本堂
- 三島神社

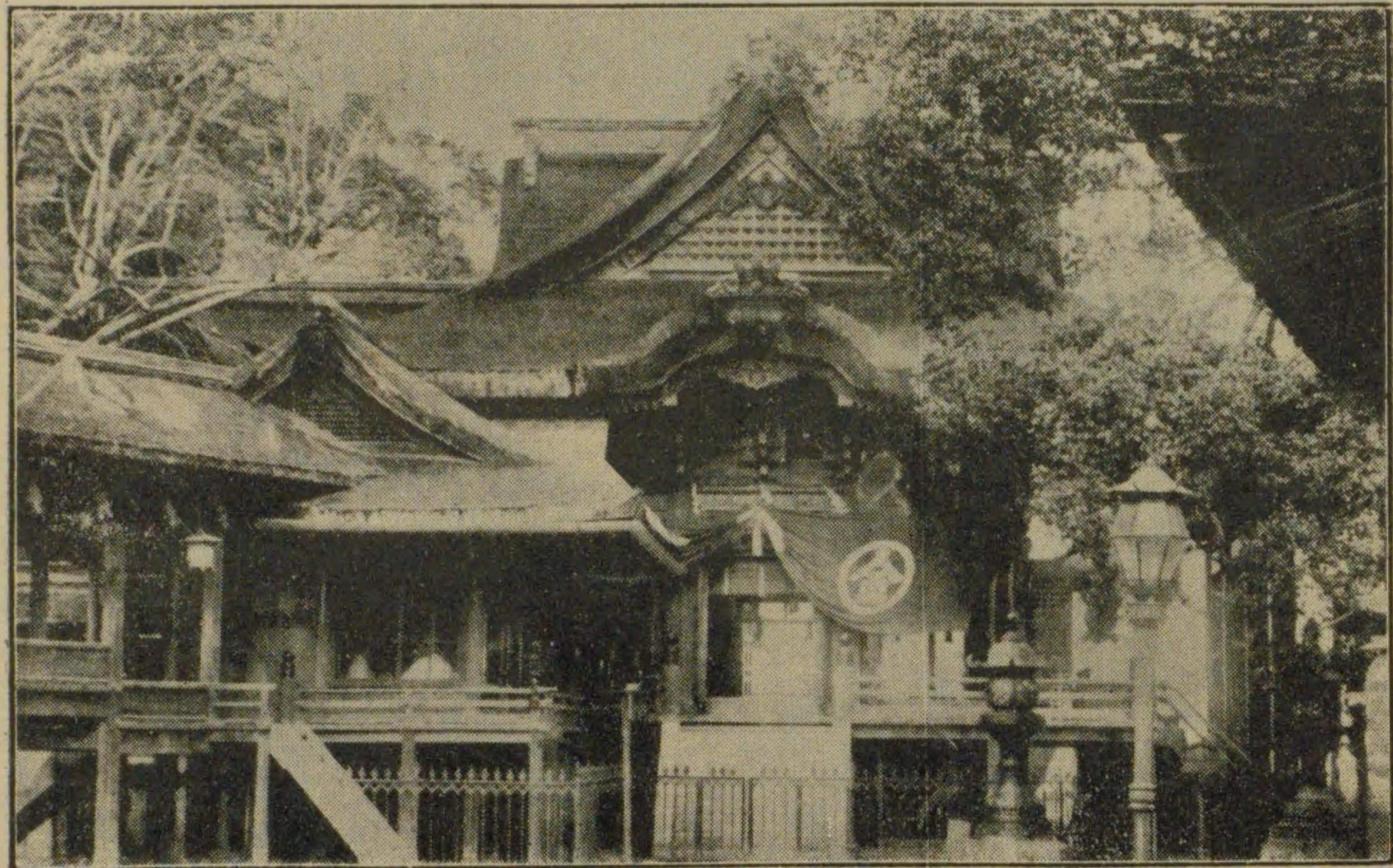


緒言 目次

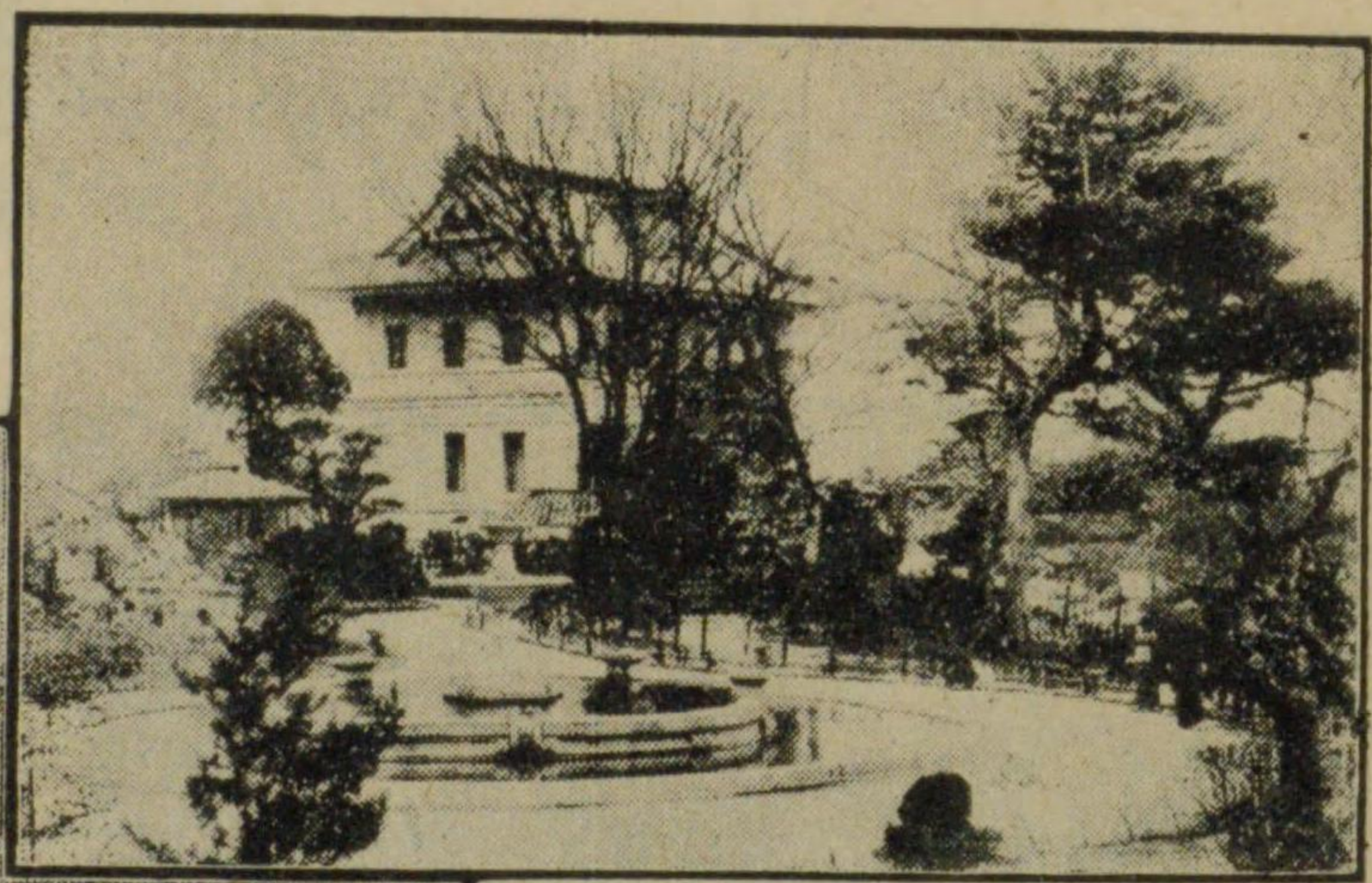
- 地理及位置、行政及自治、交通及産業
- 高松市
 - 高松城、栗林公園、法泉寺、石清尾八幡宮、興正寺別院、淨願寺
 - 丸龜市
 - 丸龜城跡、田宮小太郎墓、井上通女墓
 - 大川郡
 - 志度町、志度寺、津田松原、長尾寺
 - 白鳥神社、大水主神社
 - 木田郡
 - 八栗寺、神籬王の墓、屋島寺、獅子靈巖
 - 佐藤總信の碑、屋島内裡社、屋島神社
 - 虹の瀧
 - 香川郡
 - 法泉寺、田村神社、香西浦、根香寺
 - 綾歌郡
 - 阪出町、宇多津町、白峯神社、白峯寺
 - 國分寺、瀧宮天満神社、八十八の清水
 - 道場寺、飯の山
 - 仲多度郡
 - 多度津町、普通寺町、琴平町
 - 金比羅宮、金倉寺、山比八幡宮
 - 大麻神社、天霧山城址、滿濃地
 - 普通寺、曼荼羅寺
 - 三豊郡
 - 彌谷寺、琴彈神社、琴彈公園
 - 法華寺、觀音寺、本山寺、粟井神社、雲邊寺
 - 小豆郡
 - 寒霞溪、星ヶ城山、草加部灣
 - 富岡神社、八幡神社
 - 宇摩郡
 - 川之江町、三島町、三角寺
 - 仙龍寺、三島神社、興願寺
 - 村山神社、輕太子墓、城山



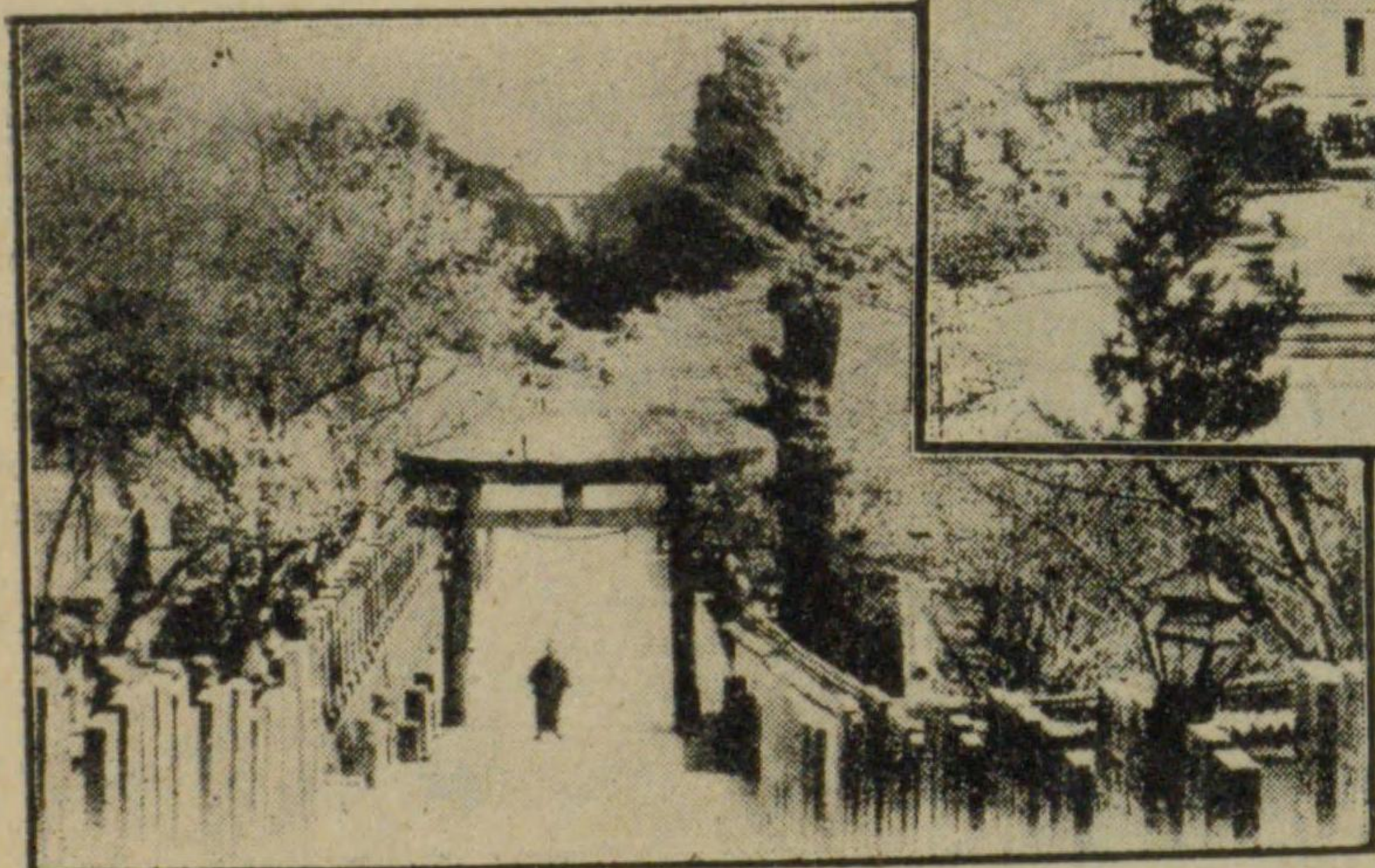
大正
7.4.1
内交



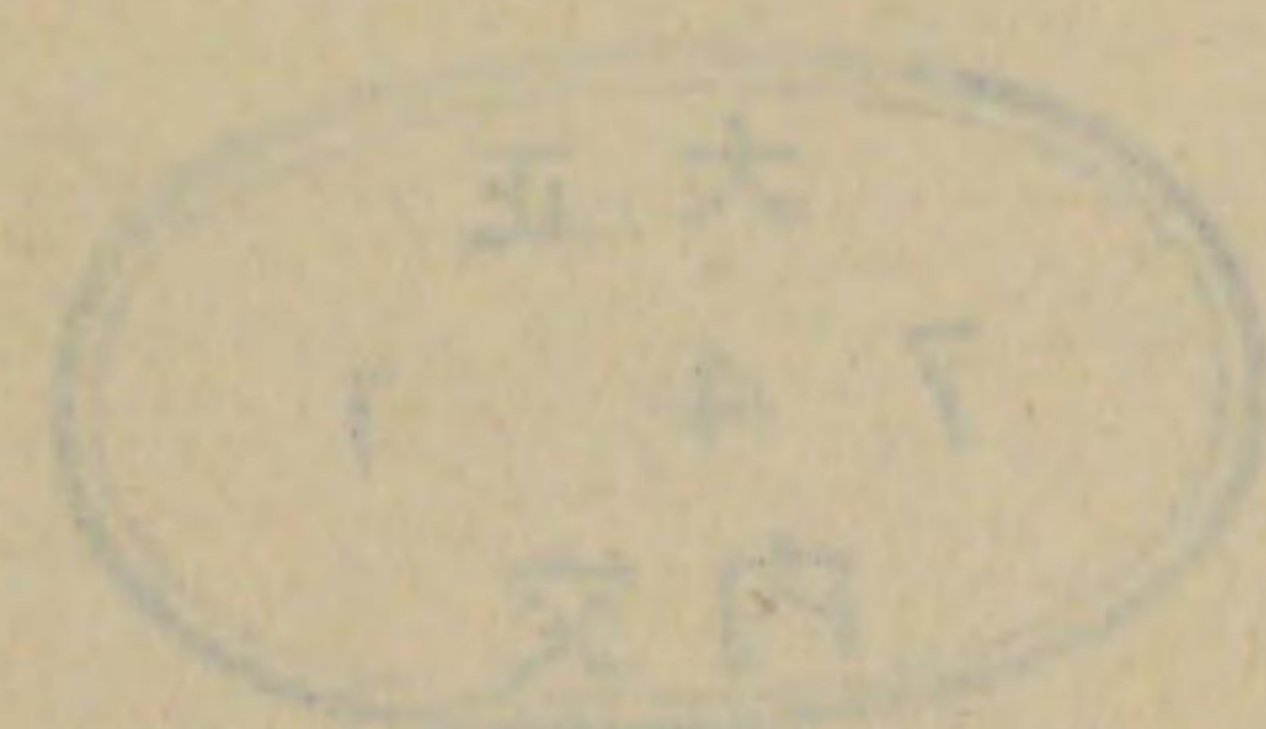
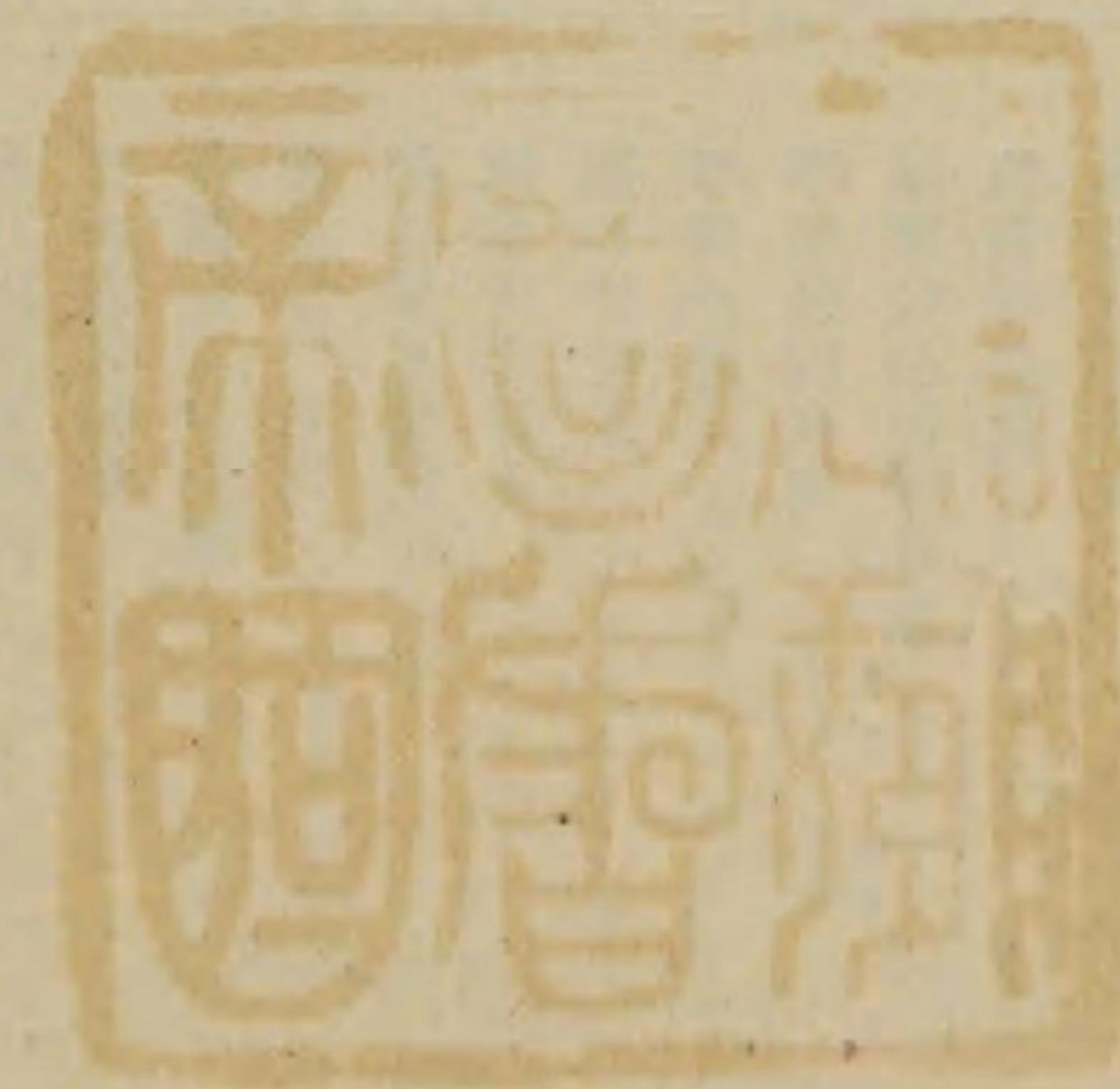
金 刀 比 羅 御 本 社



金 刀 比 羅 實 物 館



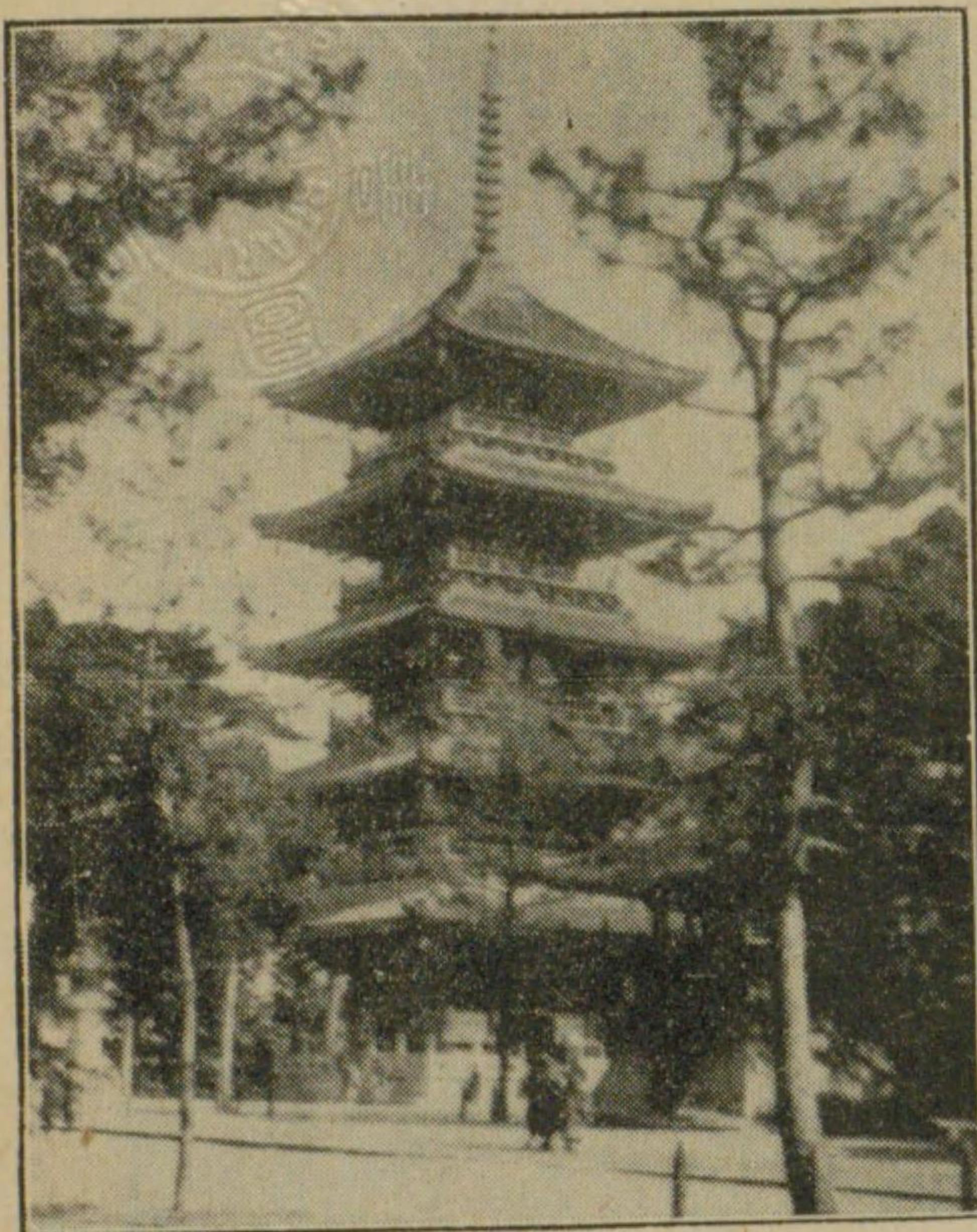
金 刀 比 羅 櫻 馬 場



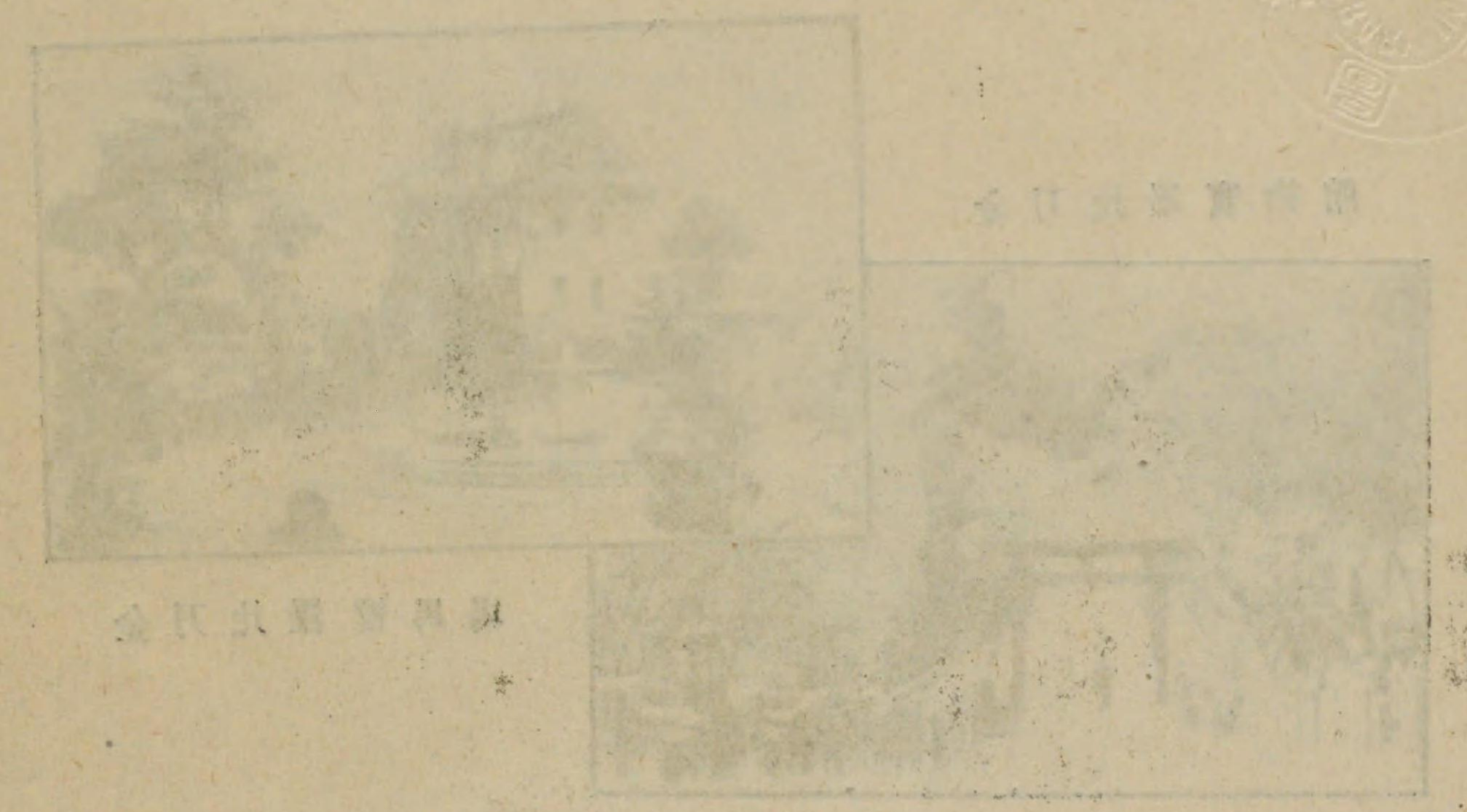
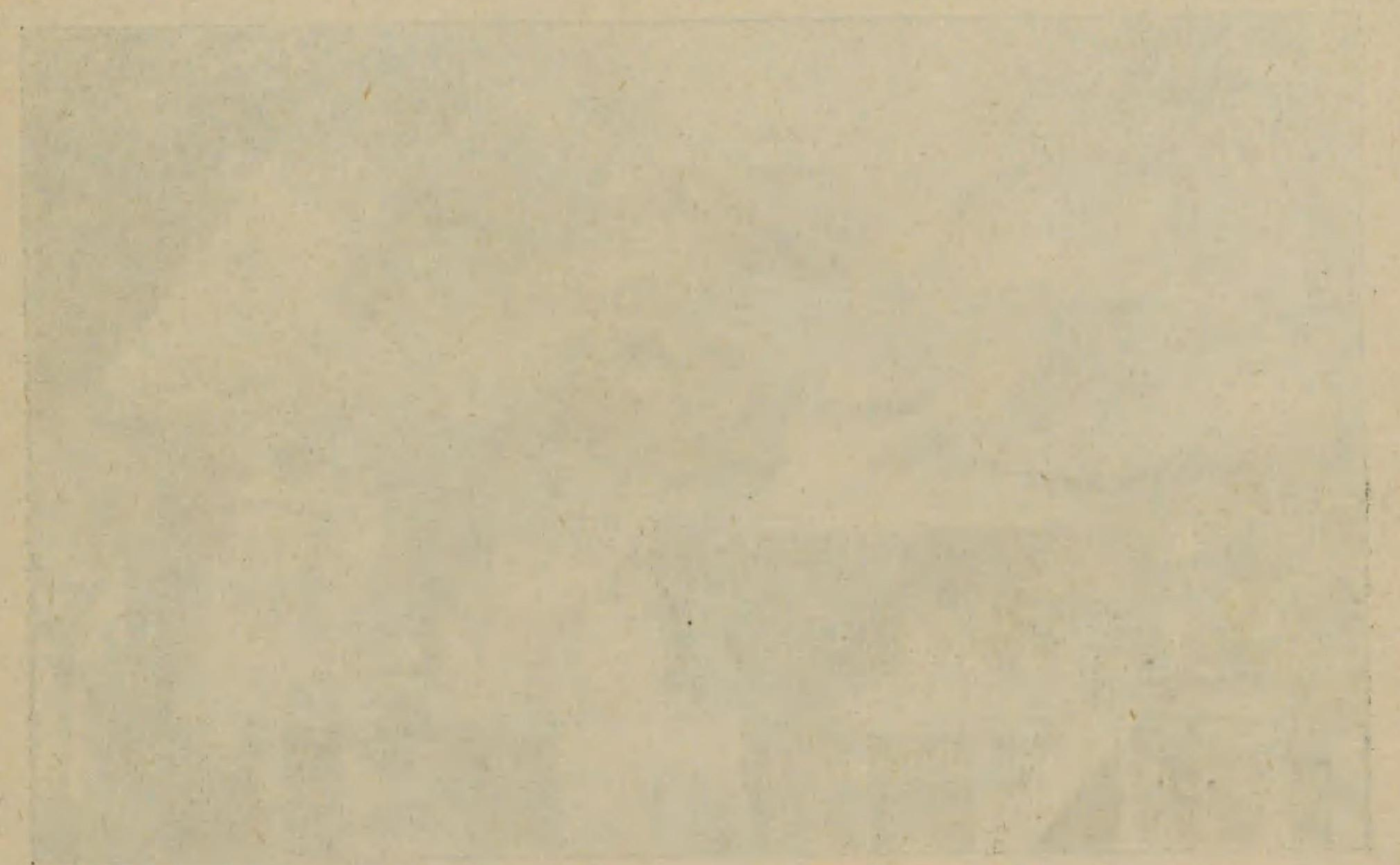
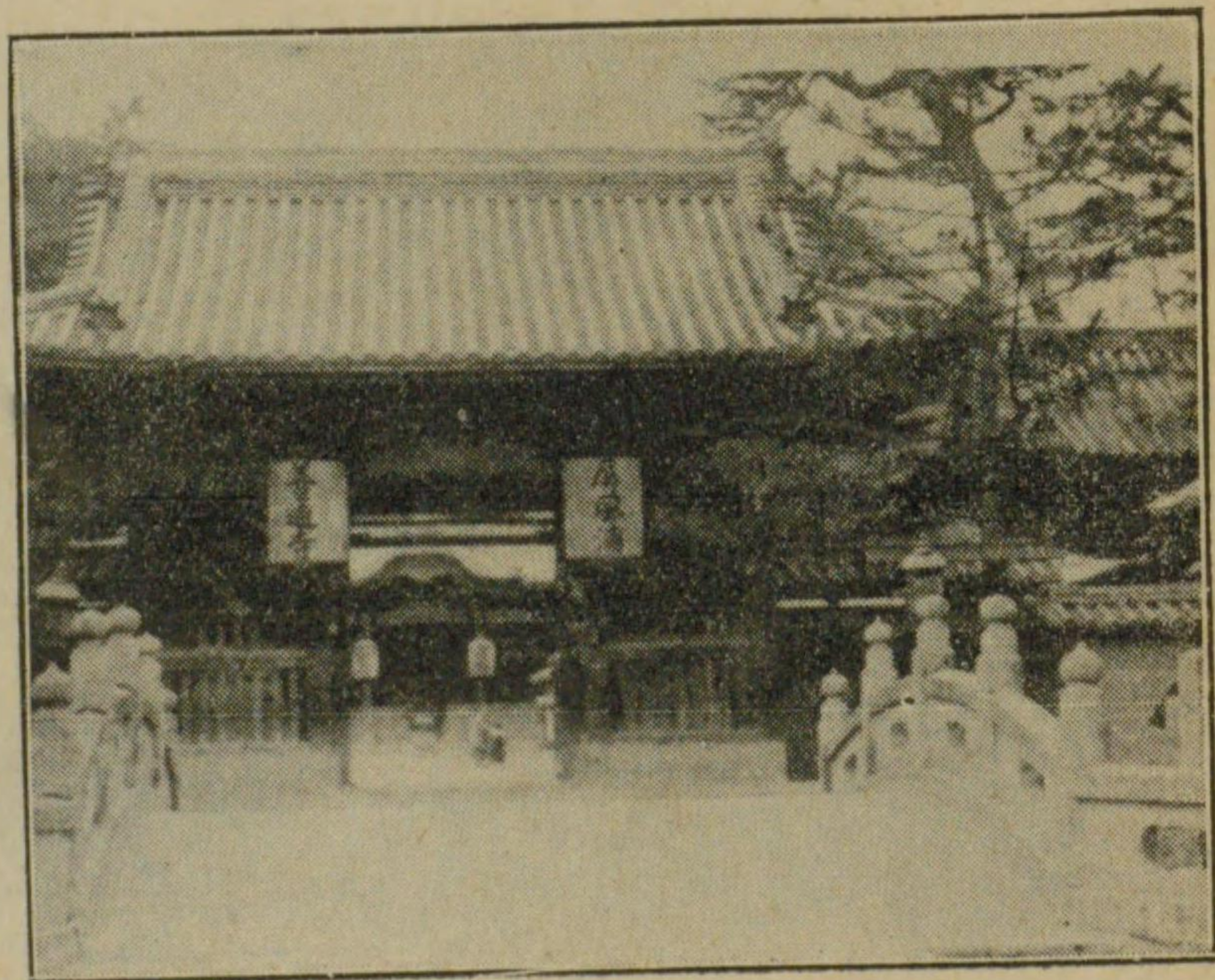
善通寺御影堂並ニ
御守所仲多度郡善通寺町に
在り
四國第七十五番の札所なり

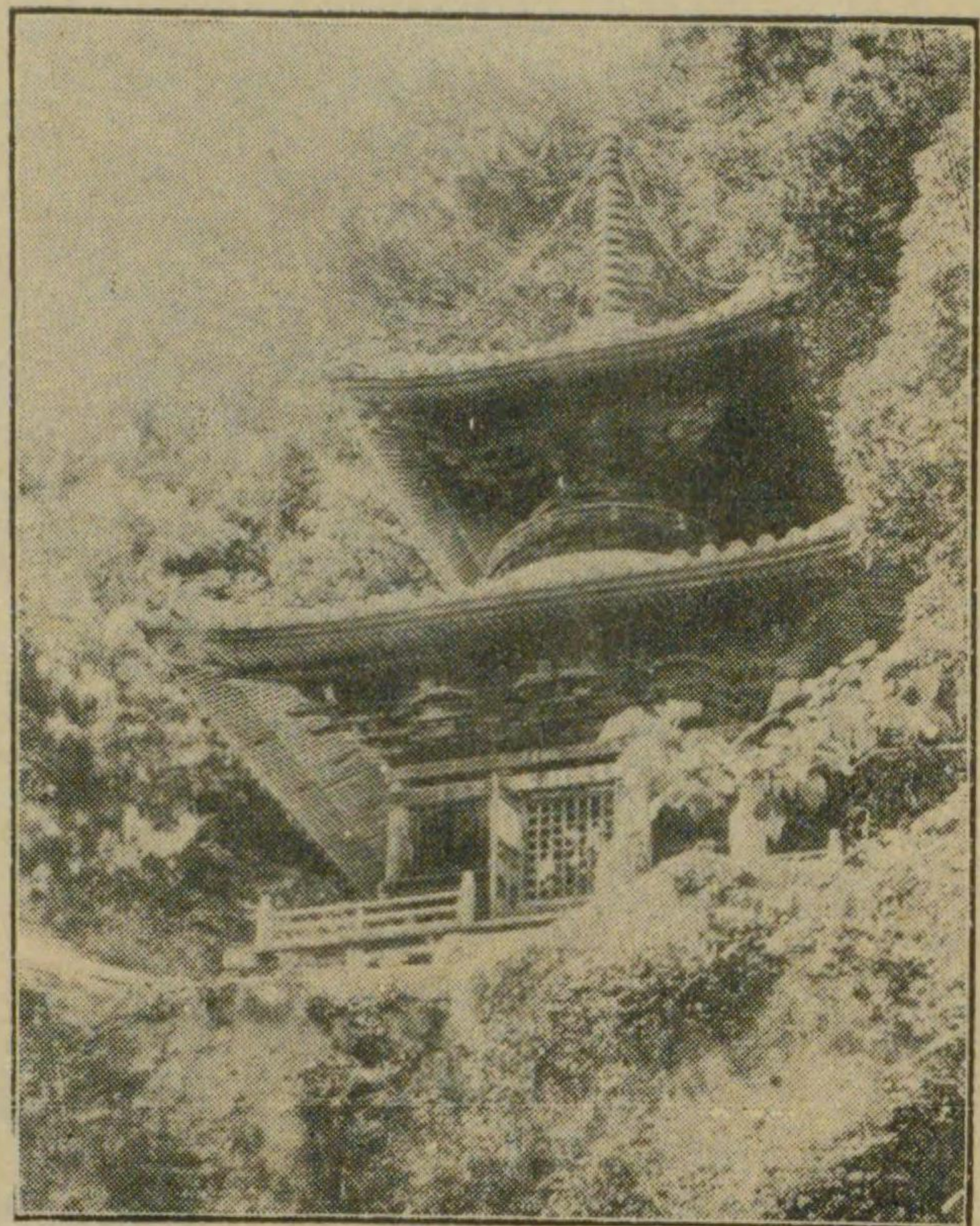


善通寺
仁孝天皇勅願
五重大塔



善通寺
仁王門並ニ
二十日橋

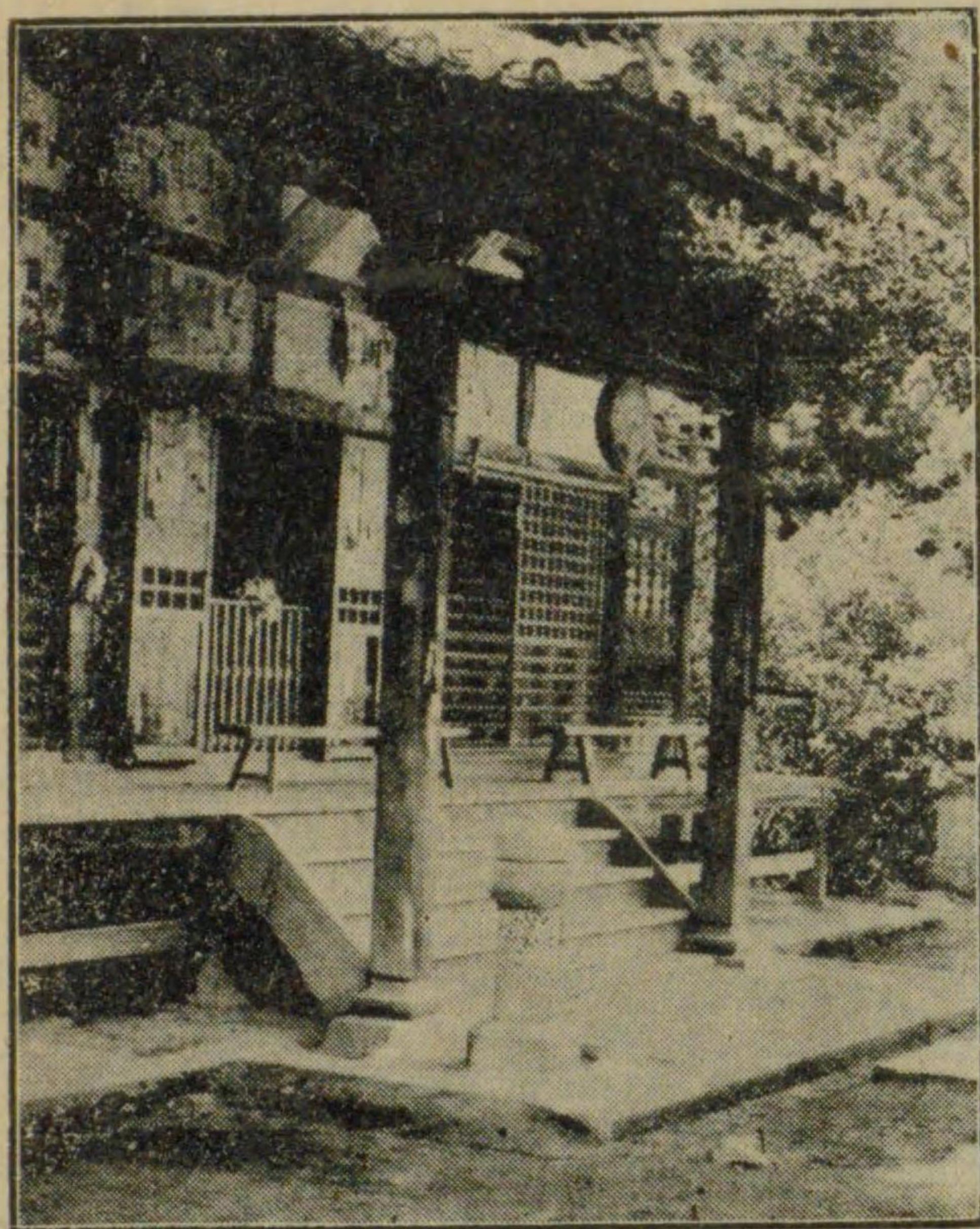




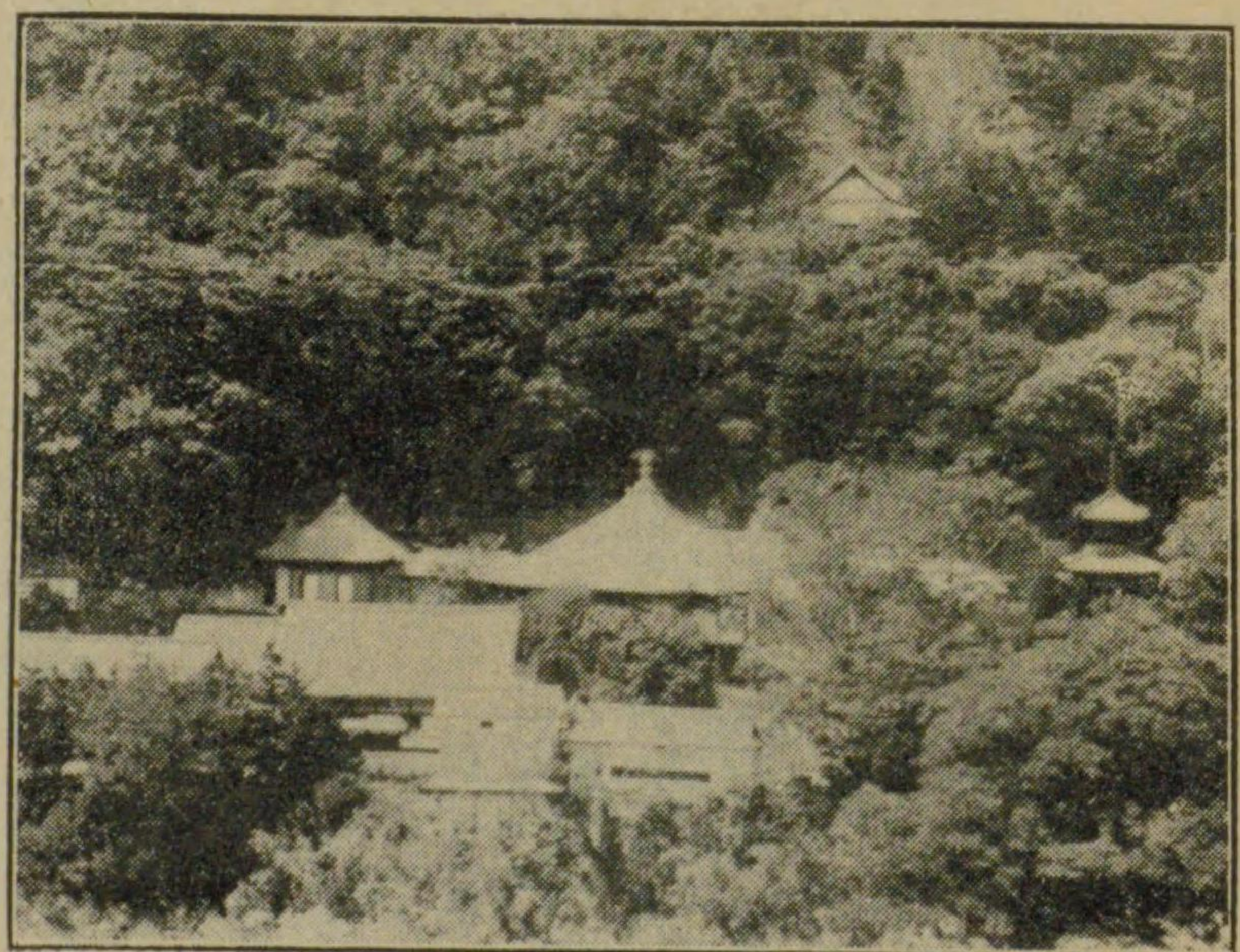
彌谷寺多寶塔

三豊郡大見村に在り

四國第七十一番の札所
なり



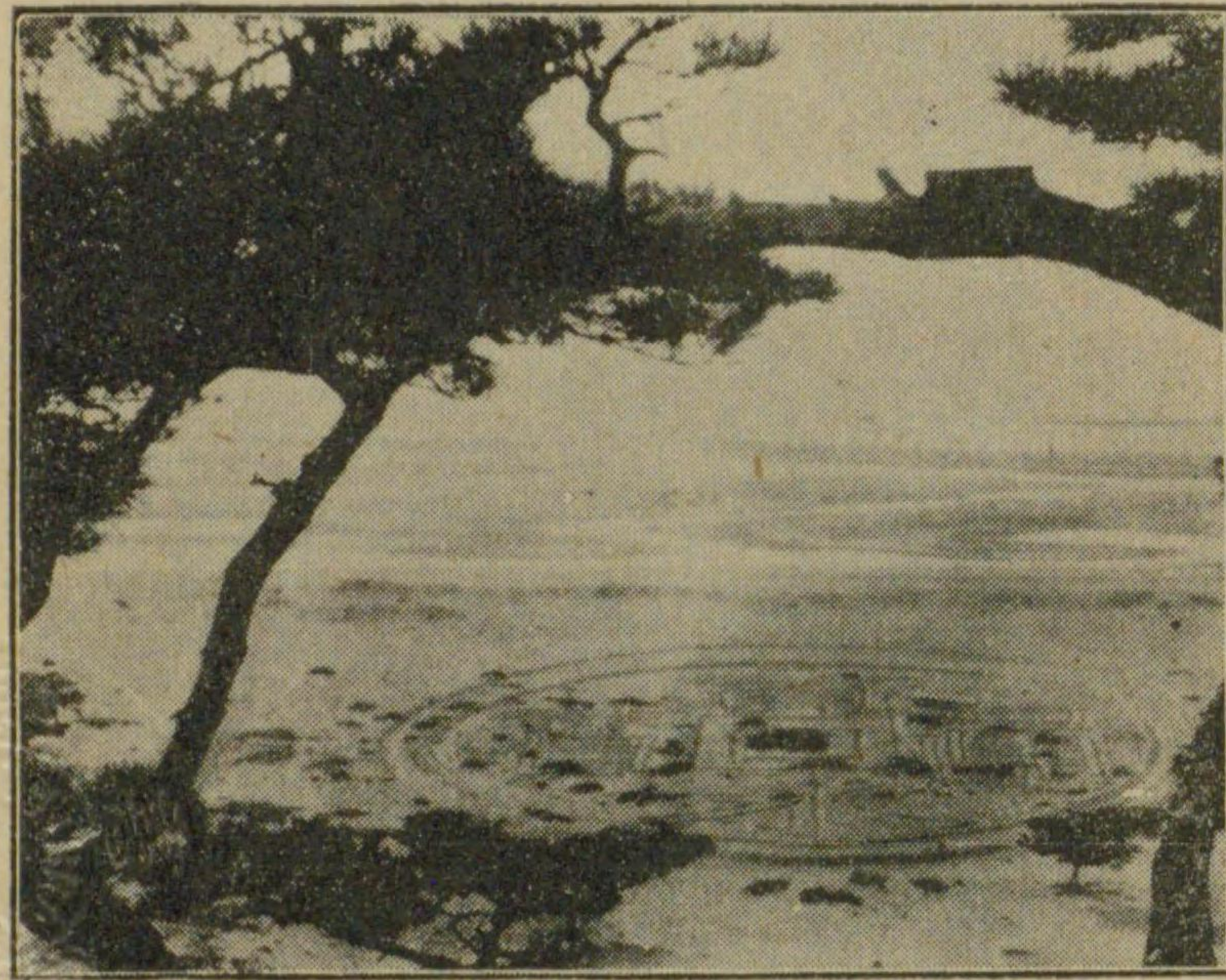
彌谷寺
本尊堂



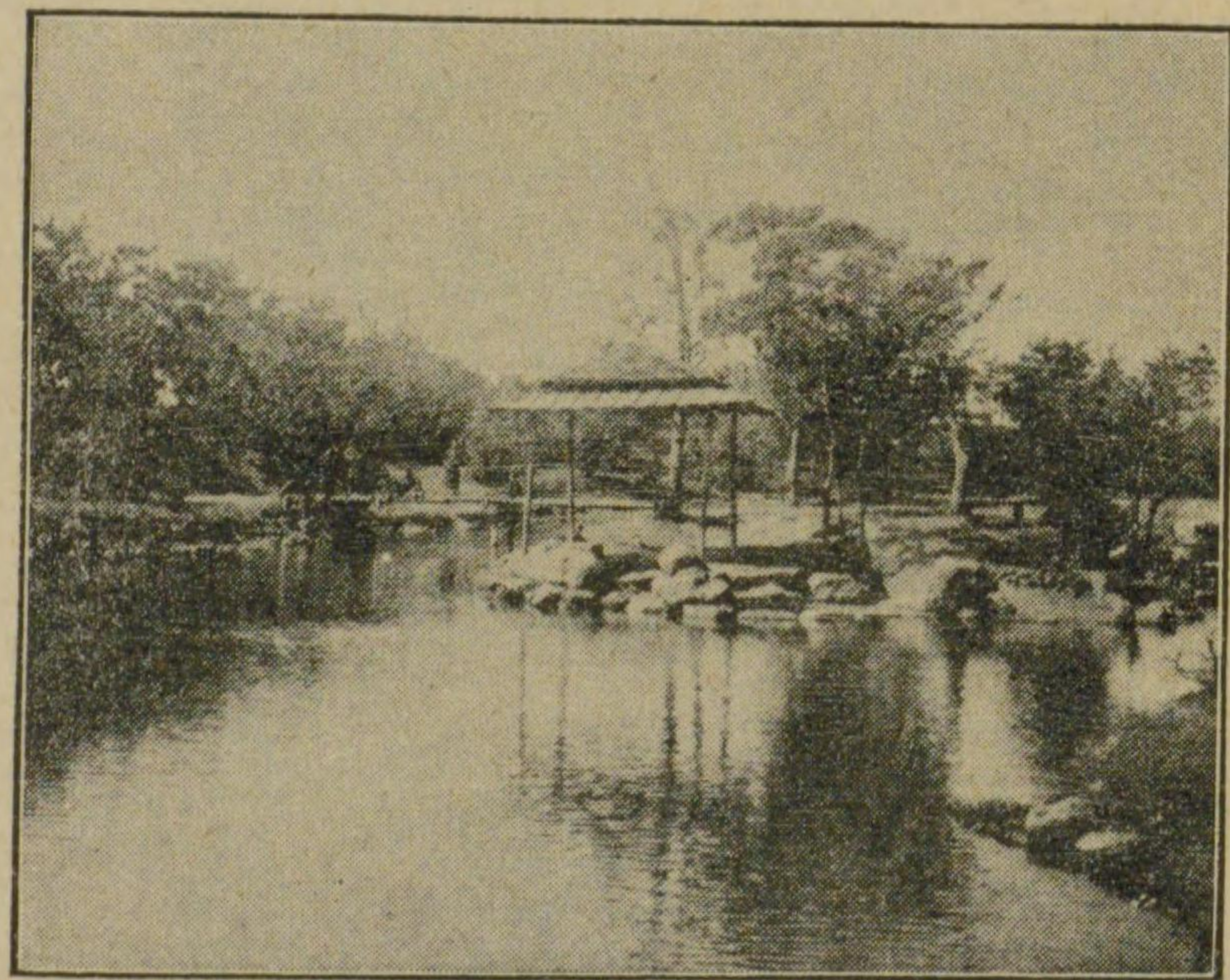
彌谷寺
全景



琴 彈 神 社
三 豊 郡 琴 彈 山 上 に 在 り
観 音 寺 驛 よ り 約 四 丁



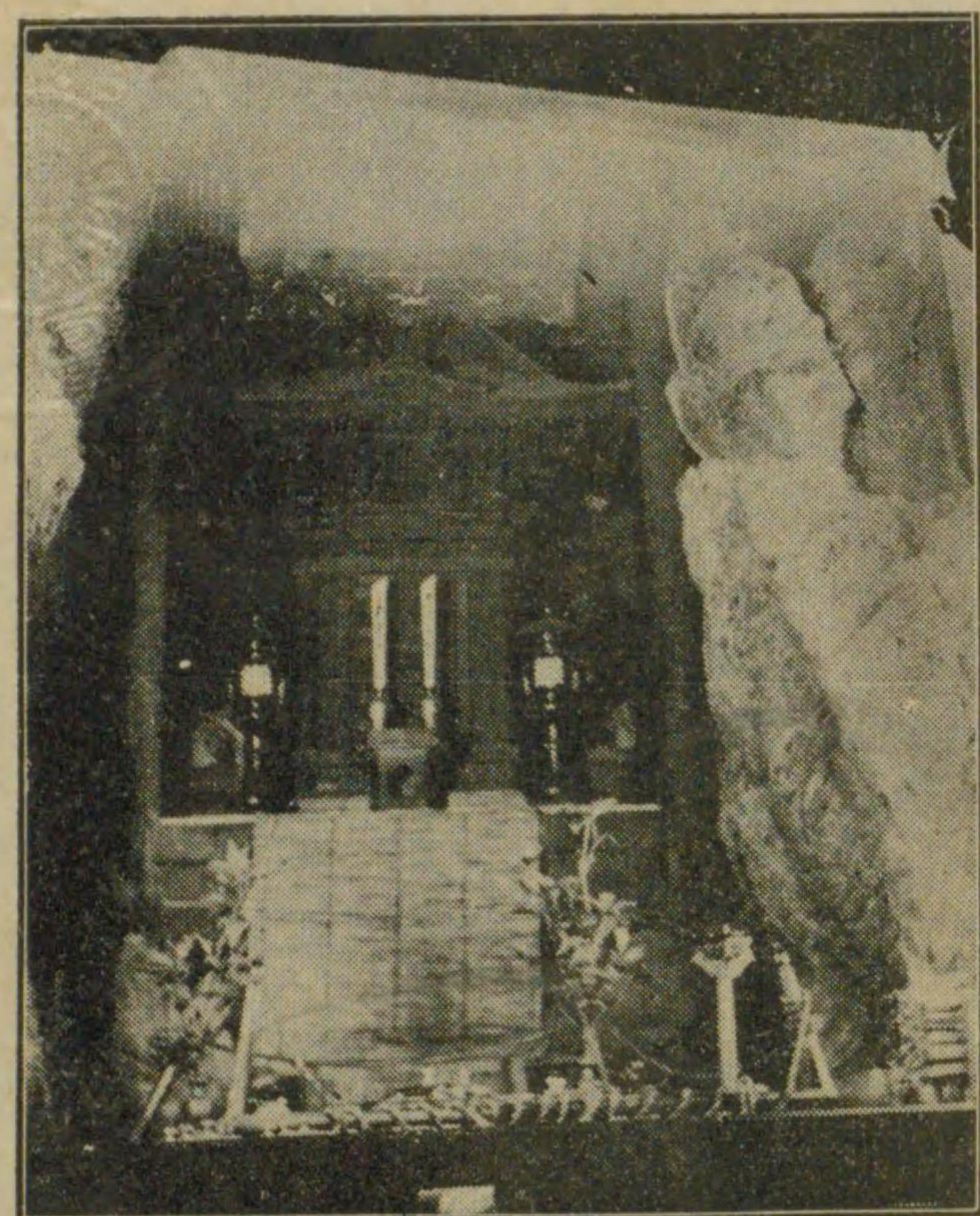
琴 彈 公 園
有 明 濱 錢 形



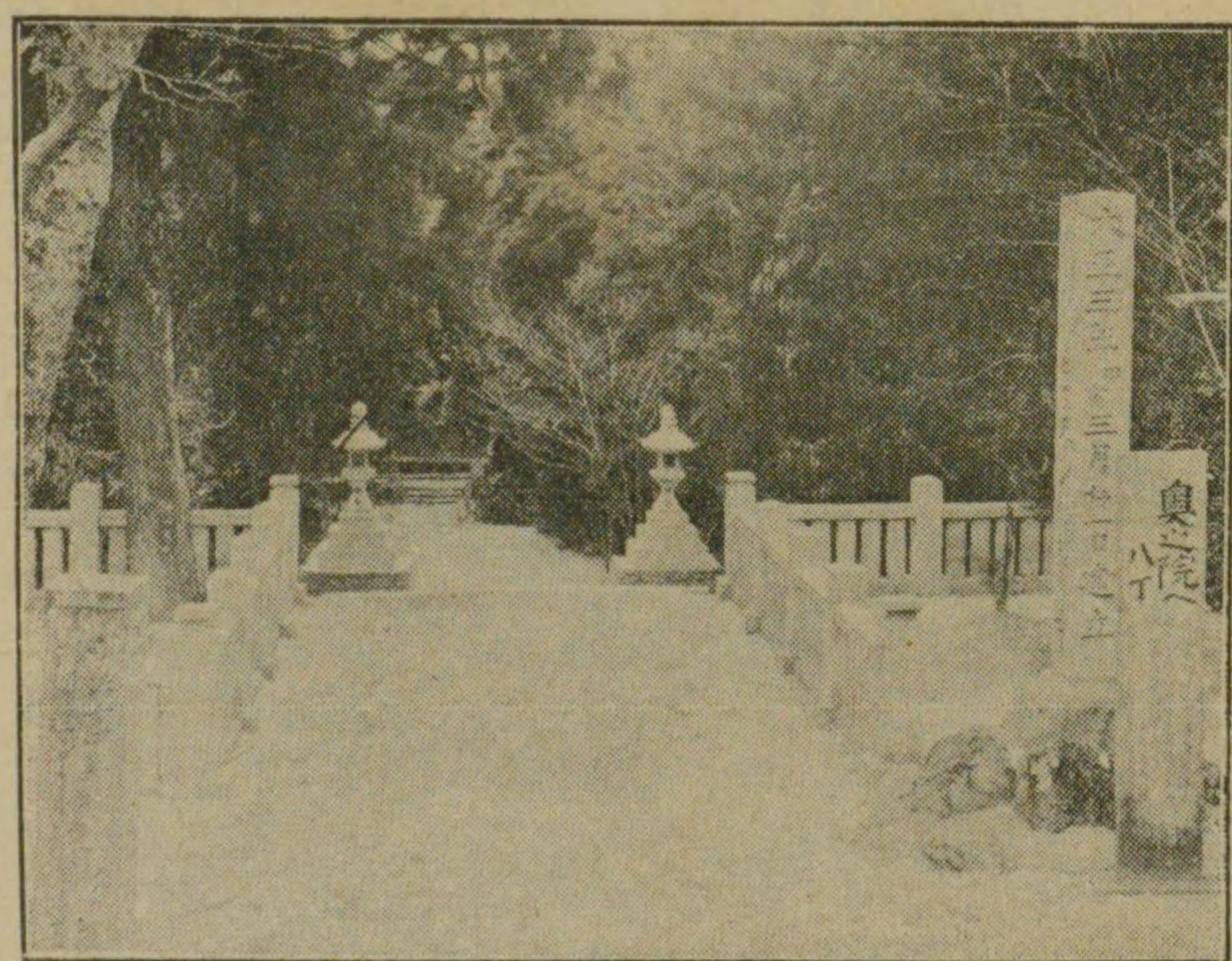
琴 彈 公 園
琴 柱 池



奥ノ院仙龍寺全景
愛媛縣宇摩郡三角寺
の奥の院三角寺より
五十八丁の山奥に在り

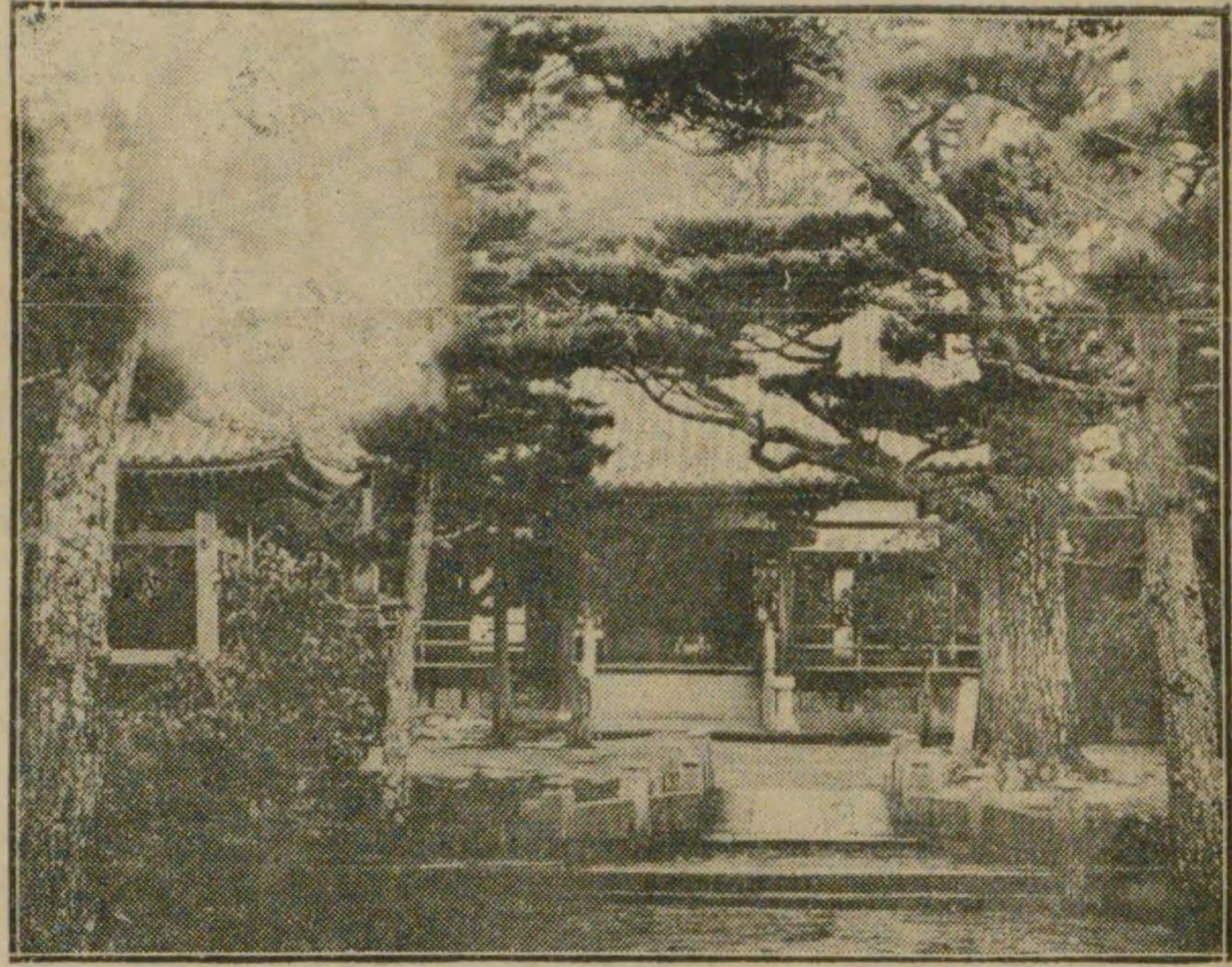


仙龍寺
大師厄除
修行の岩窟
鎮守堂

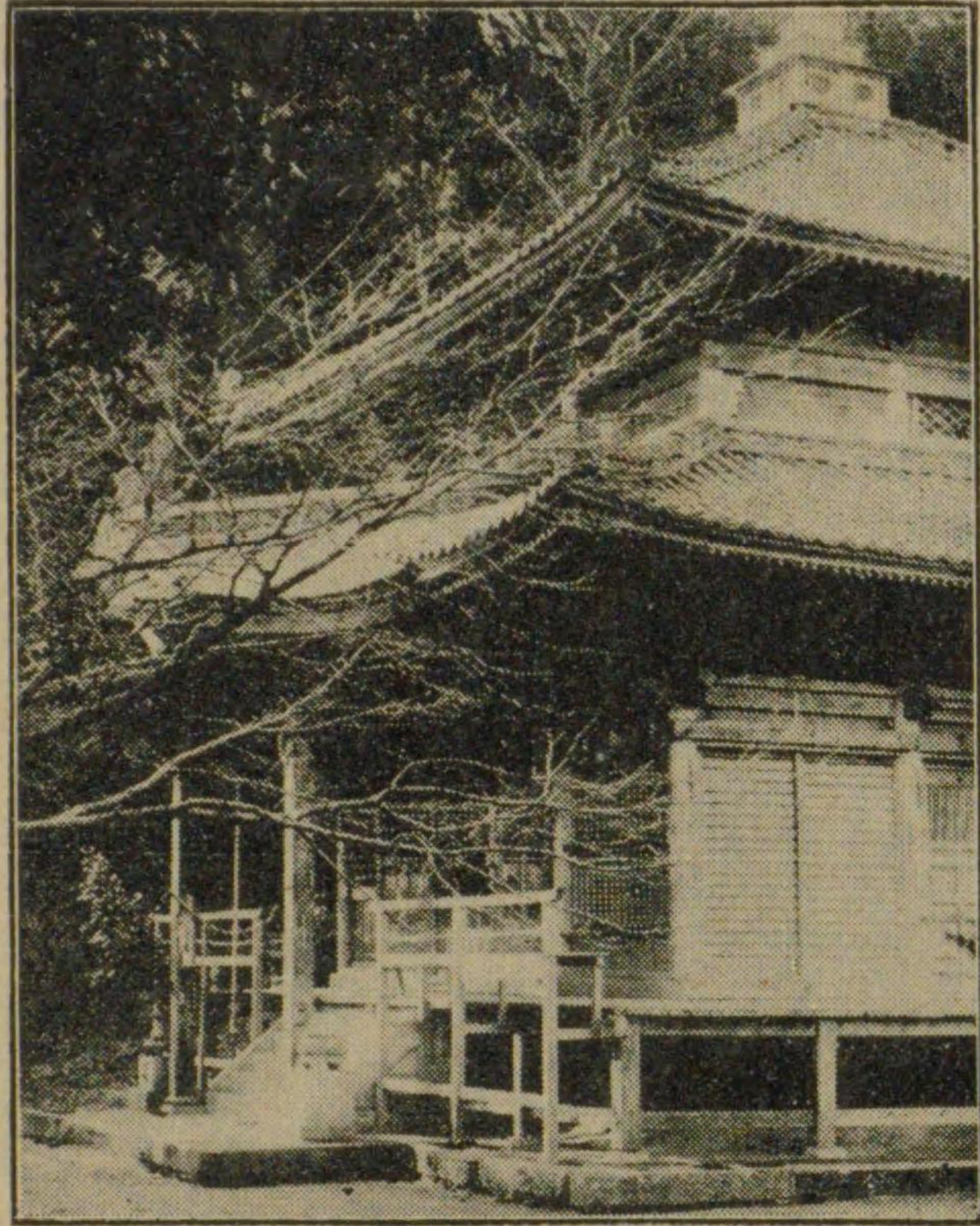


仙龍寺
八丁坂
不動堂





曼荼羅寺本堂
仲多堂郡吉原村に在り
四國第七十二番の札所なり



三角寺本堂
愛媛縣宇摩郡金田村に在り
四國第六十五番の札所なり



三島神社
愛媛縣三島町に在り
三島驛より約二丁





四 大 香 川 縣 之 部

(附愛媛縣の一部)

緒 言

讃岐の地たるや靈驗灼然たる金刀比羅宮と日本三公園の一たる粟林公園と共に、既に人口に膾炙せられ加之に當國到處に山水の風光に富み人事の遺跡其間に點綴す北には世界の公園とまで贊美的となれる瀬戸の海に臨み淡青色を帯べる海水浸々として回旋の變を盡し高峰に登りて、瞰重するに至れば蠢動せる激波宛然ルビーの如し更らに鹽飽島の小豆島等の諸島鶏の織麗に至りては誰れか天下の絶勝を呼ばざらんや。



尚、國南の景勝を擧げんか、雄嶽の崢嶸の奇を極め恰も錦繪を繰展げるに似たり。抑も讃岐の地たるや、古來より史上に異彩を放ち、人文夙に開けて偉才輩出し、産業大いに興りて無盡の寶庫を開拓し、民産富饒にして、其人剛建其熱烈、其俗撲訥にて、敦厚真に模範的國民として推奨せらるゝも又故なきにあらず。

「地勢及位置」

四國北方の東部を占め、南は阿波に隣り、西南の一小部分は伊豫に接し、東北西の三面は瀬戸内海に臨む、東西

十八里、南北十里、狭き處は二里餘、面積一百餘方里なり。此の地岬角灣多ければ海岸線の延長實に五十五里に亘り、山岳にては五劍山を始めとして大川山、飯の山(一名讃岐富士)象頭山あり。

「河川」土器川、(流程八里廿五丁餘濶さ一町四十八間)香東川、(長さ九里濶さ二町餘)此他、賊田、綾川、鴨部川等あり。

「行政及自治」

本縣は再び置かれたるものにて曾て、高松縣を置かれ又名東縣(阿波にあるもの)より兼治し後、愛媛縣に合併せられたる事あり。

往古は國府を府中村に置けり、國名の起因に就きては古來讃吉、紗拔、讃藝等の諸説あれども古代にありては、東西を經と云ひ、南北を緯と云へるが故に、東西二十五里を有して、長く南北漸く十里に滿たずして狭き此の地を狹緯と名付たりとの説、或は尙を得たるものならん歟か。

保元の亂には崇徳上皇の遷幸あり、源平戰爭の後、佐々木盛綱守護となりて、建久の末には近藤國平文に代り、

建武中興には舟木頼重を以て守護に補せられぬ天正七年に至り長曾我部氏、香川氏を降して全州を併せしが十三年秀吉南征して、之を奪ひ爾後幾多の變遷ありて、明治革新の際には高松、丸龜、多度津の三藩ありたり。現在、縣廳は高松市にあり。

交通及産業

鐵道は今や本縣高松の西を突破して丸龜を経て伊豫の三島町に至るを本線となし多度津を經琴平に至れるを枝線とす港には、高松、丸龜、多度津、阪出、其他小豆島の各港ありて、交通頗る便利なり。驛路には阿波路、同別路、同中山越、伊豫路等。本縣の物産の重なるものを擧ぐれば、鹽、甘藷、藍、石材竹細工、醬油等なり。

當國は到る處の山水の風光に富み、又趣味殊に深き人事の遺趾其間に點綴すれば行客若し、一度此の地に歩を入るれば、遊覽連日尙飽くを日知らず。

高松市

縣廳の所在地にして、松平氏の舊城下本縣第一の都會にして、商業隆盛、港には汽船和船出入し、陸には汽東あり交通の便備はらざるなし、市の廣袤東西に紫雲山を負ひ北は玉藻浦に面して男木女木の二島海中に屏立し、繪の如き

屋嶋長岬東に聳へ、風光甚だ佳なり現在戸數約九千餘、人口四萬五千を有し市内には官衙を始め幾多の諸會社銀行學校病院劇場寄席等あり、陸場の交通機關としては高松港に接して高松驛あり、鐵道院讚岐線此に起りて、丸龜多度津琴平觀音寺等當國重なる都邑を連結し、更に伊豫に入りて三島町に止る。

高松城、一に玉藻城とも云ひ市北端海岸にあり天正十六年國主生駒親正、豊前の黒田如水に謀り築く所。四世高俊罪ありて出羽に移され、寛永十一年松平頼重代りて城主となり以て明治維新に至るまで子孫世襲せり、城は今尙は樓櫓外壁を有し瀬戸内海を航するものは船中より是れを望み得可く青松粉壁の空際に聳ゆるは即ち是れなり。

栗林公園、高松に接したる栗林村にあり舊藩主松平氏の別墅にして茂林四方を繞り紫雲山は後に聳へ日本三公園の一たる程に圓内は樹の奇ならざるはなし其趣を異にす

法泉寺、臨濟宗の妙心寺派にして天正二年生駒親正草創大川和尙を開山とし、慶長三年生駒一正、現今の三番町に移すと云ふ。當寺の松は境内に在り幹圍一丈四尺七寸枝葉の延長東西十一間南北十八間其形狀恰も二重に青色の繖を張りたるが如し。

石清尾八幡宮、市内宮脇町龜命山に鎮す祭神は應神天皇外二柱にして創始は延喜十八年にして當社は高松市の産神なり、境城凡二千五百坪餘古松老杉鬱として茂り社殿壯嚴、社背の龜命山巔も瀬戸内海を下瞰して眺望甚だ佳なり高松驛より西南約二十丁

興正寺別院、眞宗にして京都の興正寺に屬す、高松第一の巨刹にして阿彌陀如來を本尊とす、市内御坊町に在り。

淨願寺、淨土宗にして京都の知恩院に屬す、幾多の堂宇と支坊とを有し正面に山門巍然として聳ゆ。本寺は松平家代代の菩提所にして現在の本堂は明應元年再建せしものと云ふ。市内五番に在り。

丸龜市

高松に亞ぐの都會にして、京極氏の舊藩地たり、北には港灣を有し、水深くして大船を容る可く、陸には讚岐鐵道ありて、運輸の便自由、商況も頗る盛んなり

城趾は町の中央にあり、始め寛永年中山崎家治が居りし所なり。

古記に圓龜を作る讚岐海岸の稍中央に位し、仲多度郡の北部にありたり。現下戸數七千、人口約三萬を有し市内には歩兵第十三聯隊の兵營を始めとし官衙公署諸會社學校病院

劇場遊廓等散在し商工業榮へ高松に亞ぐ國內第二の都會たり、又丸龜驛は市の北に在りて東西の交通に便す物産には團扇莞莖等名高し。

丸龜城跡、丸龜驛より南十丁龜山と稱する丘陵の上に聳ゆ一に蓬萊城と稱し地を抜く事百五十尺海上數里の遠きより望見す可し。

田宮小太郎墓、丸龜驛より南四丁、丸龜市南際町の京極家の菩提所玄要寺内にあり、有名なる金毘羅利生記の主人公にして院本には坊太郎と假作す。

井上通女墓、市内南條町法音寺内にあり通女は人も知る如く慧敏書を讀み詩を賦し兼て和歌に通じ雅才を以て世に聞ゆ。其ほか丸龜驛十七丁の海濱に俗に云ふ中津公園ありて園内戦々にして清洒掬く可べき亭榭四五あり、然して脚下を望めば瀬戸の海一眼に集りて美觀云ふ可らず。

大川郡

本郡は縣の東南に位し西は木田郡と境し北は瀬戸内海に臨み小豆島の海上に浮べる山陽の烟波に隱見す、る東北に望み得る淡路島も亦歴々掬く可し。

志度町、郡中第一の商區、灣の形は囊の如く、小串崎と丸山崎とは東西より突出し、北は遙かに小豆島に對し西北

には五剣山の霧間に聳ゆるあり、眺望また大によし、此の江灣は所謂志度の浦にて昔は玉の浦または房崎の浦とも稱へられぬ、本町には官衙學校銀行會社寄席等ありてなかく殷賑を極めり。

志度寺 志度町の東北にあり眞言宗にして京都仁和寺に屬す、四國八十六番の札所なり。

推古天皇の御宇 藤原朝臣房前勅を奉じて草創する所のち行基僧正弘法大師も亦伽藍を再興しぬ、寺城凡八千坪寺寶多く東讃に於ける古名刹として世に知らる

津田の松原 志度街道の津田町に屬し町外れより鶴羽村に亘り、長さ一里餘此地の地一帯の白砂にして播磨灘に面し風光繪よりも宜しく、松風海月共に賞すべきの勝地なり。

長尾寺 長尾村大字長尾に在り、天臺宗京都の岩倉實相院に屬す、四國八十七番の靈場にて天平十一年行基菩薩の創建自作の聖觀吉音を本尊とす。

白鳥神社 縣社にして大字松原村に在り境内廣くして攝社數字あり、此地一帯に白沙青松の淨城にして四望の風光に富めり。

大水主神社 譽水村大字水主に在り寶龜年間此地に創建

したるも寛文中より衷徴し今は境内苔深うして殿宇古び往古を偲ぶに過ぎず

木田郡

縣の中央に位し、縣中最も發展の遅き所なり、郡民比較的皆純朴にして質素なり。

八栗寺 牟禮村の八栗山に在り、眞言宗四國八十八ヶ寺第八十五番の札所にして延暦年間弘法大師開基自作正觀世音を本尊とす。境城約八百坪數字の堂塔斷續として列り修求開持の靈場として賽者常に絶へず

神籬王の墓 牟禮より八島に至る往還の左方丘上に在り王は景行帝第十七の皇子と云ふ。

屋島寺 眞言宗、天平勝寶六年、唐僧鑑真和尚創建にして、戒律の壇上なり、弘仁元年弘法大師七堂伽藍を再興し今の宗に改む、第八十四番の靈場にして所在は瀉元村の屋島山にあり。本尊千手觀音脇士は婆蘇大仙功德四天王七佛盧舍那佛なり、孰れも弘法大師の作なりと傳ふ

獅子靈巖 八島寺の西一町餘に在る懸崖の稱、遠近を見るに最もよき所にて必ず訪ふ可き勝地の一なり。

佐藤繼信の碑 之は岡部拙齋の撰する所にて、屋島山を

下りれる道の左傍に在り。

屋島内裡址 海岸の南方に在り。

屋島神社 縣社にして徳川家康を祭る、所在は屋島に在り。

虹の瀧 田中村大字小籠に在り、瀑に雄雌の二條あり上のを雄瀑、下のを雌瀑と云ひ、共に高さ五丈ばかり、此の境晩秋の紅葉に最も宜ければ行客必ず此の地に足をどごめて、幾となく其の風光の美如なるを賞するもの多し。

香川郡

本郡は香川縣の中央部に在りて北は瀬戸内海に面し東は木田郡西は綾歌郡南は徳嶋縣に界す農産物に富む

法泉寺 淨土宗に屬し佛生山町の南端にあり建永の昔圓光大師此地に謫せられ寛文中其像を刻して安す、丘頂には圓光大師の墳廟拜に高松藩祖以下累代の墳墓あり

田村神社 國幣中社にして一宮村にあり祭神は倭迹々百襲命姫外四座の神を合祀し往古は正一位田村大明神と稱したりしも維新後國幣中社に列せられたり。

香西浦 古來漁業地を以て知らる、瀬戸内海に面したる山水共に美なり。

根香寺 一にチゴロ寺と云ふ眞言宗にして、上笠居村勝賢山の半腹に在り四國八十八ヶ所の第八十二番の札所にして弘法大師の草創たり。

綾歌郡

坂出町 郡内第一の工業地にして、港灣を有し鹽の産出を以て名高く現に鹽務局を置かる。

人口凡一萬五千戸數二千五百を有し、郡役所の所在地たり町内には銀行會社寄席等ありてなかくの殷賑を極めり

宇多津町 往古は鶴足津と云ひたり市街は海に面し鹽業盛んにして本郡に於て坂出町に亞ぐの繁昌の地なり。

白峰神社 松山村大字高野なる松山の中腹にあり、縣社にして崇徳天皇の御陵地に視れるものなり。

白峰寺 當寺は眞言宗にして大字青海に在り、此の附近を綾の松山と稱して風光に富む、綾松山洞林院と云ひ本尊僧知澄作千手觀音にて四國八十一番の靈場なり。

國分寺 眞言宗にして端岡村大字國分寺にあり。白手山千手院と號し眞言宗にして四國八十番の札所なり。

瀧宮天神社 瀧宮村に鎮座の縣社、天曆二年の創建にして此地は菅公の館跡なり。

八十八の清水 一に野澤の水と呼ぶ、其水芳冽なり、所

在は西社街道の傍とす。

◆道場寺。宇多津度町に在る、真言宗にして四國八十八ヶ所第七十八番の札所なり。

當時は佛光山阿彌院と稱し本尊は僧空海作一尺八寸の阿彌陀如來の座像にして草建も空海なり

◆飯の山。飯野村東方にあり、俗に世人が讃岐富士と稱して名高し彼の琴平町より見るなれば其形駿河の富士其ものよりもよく、まことに好形を現せり海拔千三百四十二尺西麓は飯野神社あり。

◆仲多度郡

本郡は縣の稍中史に位し、東は綾歌郡西は三豊、南は徳嶋縣に隣り、北は瀬戸内海を隔て、岡山縣と相對す。

人口蕃殖農生物に富み商工業又股賑を極め、氣候中和土地肥沃なり。

◆多度津町。京極氏の支封舊地にして、國內第一の要津なり、内海航行の汽船一として寄泊せざるはなく、旅人貨物共に輻輳す學校寄席遊廓會社等ありて商工業また榮ゆ

◆善通寺町。古來巨刹善通寺あるを以て名を知られ又明治三十一年第十一師團の司令部及兵營設置せられてより人烟次第増加し、現今人口一萬五千を有す

◆琴平町。象頭山麓にありて往古は一寒村に過ぎざれども慶長年間より金比羅大権現の威靈を崇拜するもの陸續として來り現今人口九千を有し官公署諸會社學校劇場遊廓等あり商業の亦盛なり

◆金比羅宮。琴平山の中腹に鎮座まします國幣中社にして祭神は大櫻已貴命にして相殿には崇徳天皇を配祀す櫻馬場は賽路の兩側に櫻樹數百株石燈籠と相並びて玉垣の左右を限る陽春の候に花光爛漫として恰も花の隧道の觀あり旭社には天照大神外七座の神を祀る社殿は二重入母家造銅瓦葺にして高さ六丈一尺桁行梁行各六丈餘あり天保八年の創建なり

賢木門は唐破風千鳥破風との棟を交へ優雅なる建物なり金刀毘羅宮本社は抑も本殿創建の上古は之を知るに由なきも中古は長保三年一條天皇の勅を奉じて藤原實秋改築し、降つて元龜四年及び天正年間岳曾我部元親之を再建す。萬治二年高松城主松平頼重修築せしが春秋幾百年漸く頽廢に傾きしを明治十一年改築せり拜殿前より北方を望めば眼界頗に開け西讃の平野に讃岐富士突屹として碧堂へ聳ゆ瀬戸内海の白帆去來する様眞に活畫の如し

實物館は石造二階建にして本社の珍寶佳什を陳列しありて一般參詣者に拜見せしむ
祭典は年中殆んど絶ゆることなしと雖も大祭は毎年十月九日、實に弘法大師の誕生地なり。

十、十一の三日間に行はる

◆金倉寺。瀧川村字金藏寺にあり天臺宗にして四國八十八ヶ所の第七十六番の札所なり

當寺は鶴足山寶幢院と號し、知澄大師が祖父及び父の菩提の爲め草創せし所なり、初め寺號を道善寺と云ひ原田村にありしを後今の地に移し、七堂伽藍に改建して勅願所となり、慶安年間松平頼重之を修造し寺領三十石を寄附せり寶物には兩界曼陀羅、大般若經本尊十六神像、同幅跋文等ありて孰れも國寶に列せらる又當寺には曾て乃木將軍、師團長たりし時當寺に寄留せられし關係上乃木將軍の逸品數多あり。

◆山北八幡宮。南村大字山北に在り、郷社にして、創建不詳なれども古來此地の生神なり

◆大麻神社。延喜式内の舊社所在麻野村象頭山に隣接し満山綠草を以て蔽はれ恰奈良三笠山に彷彿たり

◆天霧山城址。白方村天霧山上に在り正平年中香川信景の據りし所と云ふ

◆滿濃地。周圍二里三町神野村大字眞野に屬し其の灌漑の及び所實に大無邊なり

◆善通寺

善通寺町驛より、約十丁松柏鬱深したる山岳起伏の邊り絶壁清淨の所によりて四國八十八ヶ所第七十五番の靈場に於て、實に弘法大師の誕生地なり。

今別格本山屏風浦善通寺の由來を尋ぬるに、延曆二十三年六月右大辨兼越前太守藤原實能郷遣唐使として渡唐の時大師留學の勅を奉じて同使と共に乗船入唐せられ、留學三年歸朝後藤原藤原藤原藤原を以て真言宗を弘む可き勅許降り茲に於て大師御住になりし譜代の御館を三寶に喜捨し、大唐青龍寺の伽藍を模し、在唐の砌り印度の般若三統菩薩より授りたる、天竺八塔の土を敷き此の伽藍を建立す。是れ真言宗最初の伽藍なり。

抑も此の寺の山號を五岳山と稱する所以は、伽藍の後方に起伏する火上山、中山、我拜師山、筆山、香色山等五箇の總稱より起る屏風浦と云ふは、此の五山聯續して其の山影恰も屏風を立てたる狀の如きより起り、寺號を善通寺と稱ふるは大師の御父善通郷の御名を通用したるものにして深き孝心より出で玉ひし謂れなり、亦誕生院と稱するは、大師御降誕の舊跡なるが故とす。

寛喜元年後堀川天皇の御繪旨に曰く
(善通寺は三國相ふの灯を我寺にさゞげ五智瀉瓶の水鏡に此所に湛ふ一天の下誰人か其實雨に濕ざらん四海の内

孰の輩が其智れに浴せざらん)

と宜ふほどの靈跡なれば、歴朝御崇敬厚く田園寄附等の御
輪旨を賜り其の他種々の旨趣を以て數多の御輪旨を下さる
然るに武家旺盛の時代に當り、武家の爲めに勅願免田を横
領せられ、堂塔は傾き増院を廢り、晚鐘の聲微に響く慘狀
を呈したるが其後僧涉等衰頽を歎き有範上人を懇請して善
通寺に移注せしめ恢復を圖る有範は元徳二年より土木の工
事を起し、爾來今日に至るまでの間火災亦たは天災の爲め
幾回も造營して今日に至れり。現時の住職佐伯有榮僧正は
高德智識にして、銳意金山の恢復を計り、日露戰役後戰捷
記念として南大門を建立し、尙大玄關、客殿、大旭殿、庫
裡、寶物館等を新營あるろは改造し、尙大阪本田の田村源
次氏自己一人にて數千金を投じて、廻廊を寄附するなど、
其の結構若大壯麗を極むに至れり。

(附記)

世人往々牽強附會の説に惑され、弘法大師は海岸寺の附
近に誕生せられ、夜啼の爲めに仙遊ヶ原に捨子としたるを
善通寺の住職が拾ひ上げたとか、或は夜啼の聲が法華經を
讀むとか種々の妄説を信じ誤信する者ありと聞く、是れ所
謂一犬虚を吠へば萬犬實を傳ふるものにて倭奸の業の徒な
りとす。弘法大師の御誕生所は善通寺なる事確實にて大師
の御鴻徳を仰ぎ奉らんことを。

三 豊 郡

本郡は香川縣の西隅に位し東は大麻及彌谷山を隔て仲多度
郡に接し南は阿讃山脈に連り愛媛縣宇摩郡德島縣三好郡に
界し西北は瀬戸内海に面す農産物に富み漁鹽も又多し
●觀音寺町 本郡の西郡財田川口に位し市街東西に長くし
て南北に短し人口約一萬五千を有し郡中第一の都邑なり、
郡衙學校等散在し、商工農を營むも漁業甚だ盛たり

彌 谷 寺

大見村彌谷山の中腹にあり當山は天霧山の峰續きにして、
且山中岩石突出し阪路崎嶇また一奇山なり、而して岩窟を
穿ちて佛廟を營む、岩石多くは佛像を刻せり、天平勝寶年
間僧行基菩薩これを開き、後弘法大師これを脩む本尊は千
手觀音菩薩にして空海嘗て求開特を修せし時、五柄の劍大
空より降りしを以て劍五山千手院と號す享保五年火を失し
全部烏有に歸せしを京極高規之を再建すと云ふ、大師堂の
傍側、石壁千尺の間に刻せる彌陀の名稱九個は實に弘法大
師の手刻と云ふ、寺は貞治以後、香川氏の香火院となり、
同氏數世の墳塋あり更に後世京極氏これを重修す、寶什多
く中にも弘法大師入唐將來の金銅五銖鈴一口は明治三十四
年國寶となる他に行基作佛像、經卷等數多あり

曼 茶 羅 寺 (第七十二番の靈場)

寺は吉原村大字吉原に在り眞言宗にして我拜師山延命院
と號し、弘法大師の創立になれり。
本尊は坐像大日如來にして、大師の作りと傳ふ、現今堂宇
は本堂、護摩堂、大師堂、鎮守堂、愛染堂、龍り堂、鐘樓、
仁王門、客致、庫裡等にして鐘樓の前に櫻樹を植へ標石を
立て、西行の歌を勤すと云ふ。

四國の方供しまかりける同行の都へ歸りけるに

歸り行く人の心の思ふにも離れ難きは都なりけり

かの同行の人かた見とて櫻に笠を懸け置けるを見て

笠はあり其身は如何に成ぬらむ

隣れはかなきあめかした哉

尙當寺の境内に有名なる不老の松あり此の松は俗に弘法大
師御手植の松と稱せり、(直徑十間高さ二間七百年の古木)
住職橋本清雅氏は温厚の君子人にして讀書の人として有名
なり。

琴 彈 神 社

四國八十八ヶ所の第七十一番の靈場にして眺望亦絶佳なり
常に諸國より日々參籠する人絶ゆることなし。

●抑も讃岐國琴彈山上に宮柱彌太く、千木彌音に聳む音掛
卷も綾に長き琴彈神社は應神天皇、神功皇后、玉依姫命の
三柱を置き祀れる御社にして、平城、桓武、龜山、後陽成
の四天皇の勅願所に於ありける畏みて石の上古き昔を尋ぬ
るに今を隔ること一千ある有餘年大寶の昔八幡大神玉敷の
都近う上らせ給ふとて知らぬ火の筑紫なる宇佐の御社壇を
出御まし、八重の潮路に船出し玉ひ鶏が鳴く東の方に
進ませ給ふ御路すがら海山のながめ管ならすたかきに御心
深く畏し給ひ愛で給ひて遂に當山に鎮座まし、たる御事
にて其頃くさく、の怪しく奇しき靈驗をありはわせ給ひし
事どもに古りし記録にいと詳なり。

かわれば青雲のたなびく極み白雲のむのぶに限り神威の赫
々としてあまねく輝き渡らざるなく四方の蒼生風に吹かる
ゝが如く靡きになびき臥して其の厚き御恵を蒙らざるもの
なかりき。

然ればこゝ源將源義家公九郎判官義經公をめでして足利將
軍義持公等深く信仰せられ下りて此處彼處の國守領守も或
は數多の社領を献納し或は社殿を御造營し奉り、こよなく

崇敬せられしなれ此の如き由緒を有する神社なれば平素諸國よりの參拜者も亦多く加ふるに過ぎし年より其が四隣を始め有名の象が鼻、有明濱を次で悉く公園地と定めしより其の名聲更に聞え渡りて日毎に杖を曳き來る者足跡の絶ゆる事なし

●琴彈公園 觀音寺町財田川を隔て、相對する琴彈山と有明濱の二大自然を利用せる勝地にて周圍一里あり琴彈神社裕日館、共樂館及動物舎など設置され浴日館は明治三十三年小松宮殿下御來泊の紀念館にして館内長閑浴日の四文字は實に殿下の御染筆なり、有明の白沙上に印せる寛永通寶の古錢形は頗る珍とすべし

西北に山陽の峰巒を望み近くは讚豫の群島を下瞰し瀬戸内海の白帆一眸に集り風光眞に畫の如し。

●法華寺 日蓮宗にして下高瀬村に在り本尊は三寶式中央に宗祖所願の大曼陀羅を安す伏見天皇宇正應二年甲州の人秋山十住守泰忠の建立に係り開山は讚岐阿闍梨百貫坊白仙上人なり

●觀音寺 觀音寺町琴彈山の麓にあり眞言宗にして四國八十八ヶ所の第六十八番六十九番の靈場にして七寶山神惠院と號し弘法大師の開基なり本尊は大師作聖觀音にて今境内

にある石塔は奇石愛すべく四五の堂宇斷續しとて連り寺寶多し。

●本山寺 本山村にあり眞言宗一等格寺院にして京都嵯峨大覺寺の末流なり、大同二年平城天皇の勅を奉じて弘法大師の創建せしものなり本尊は馬頭明王の座像にて阿彌陀樂師の二如來を脇士とす初め寺號を長福寺と云ひ七堂伽藍の大建築なりしも長曾我部氏の兵燹に罹り一時荒廢せしも近時舊觀に復するを得たり。

●粟井神社 縣社にして天太玉命を奉祀す由緒最も古くして神器古器物多し境内廣壯閑雅なり。

●雲邊寺 五郷村にあり海拔三千六百尺の雲邊山嶺阿讚の國境にあり巨鼈山と號し弘法大師の創建にして大師自作の千手觀音を本尊とし四國第六十六番の靈場なり

小豆郡

土庄町郡中(小豆島)第一の繁華地にして亦第一の港邑也僅に一橋を架して淵崎と相接す、汽船は神戸より洲本、明石、丸龜、鞆、三原等と往復す。

●寒霞溪 四時の中、殊に紅葉を以て名高し、山上は四國中國を眸中に納む可く、登るには一步一景にして無數の勝ありて詩人の吟詠多し、又夏季に至れば海水浴場として、

遠く阪神方面より此の地を訪ふもの多きに驚くばかりなり

●星ヶ城山 寒霞溪の東三十丁、安田村あり、山上は遠望に宜しく東峰神社、西峰神社の二祠あり。

●草加部灣 一に内海灣、沿岸の地は天武天皇の第一の皇子草壁王の御名代地とせられしことあり、明治廿三年には今上帝御寄泊あらせらる

●富岡神社 郷社にて所在は淵崎村、又は、龜山神社は池田に在り。

●八幡神社 四海に、何れも應神帝を祭り奉れり。本郡の物産は彼の有名なる醬油を第一として石材も其の一に數へらる。

宇摩郡(愛媛縣)

宇摩郡は愛媛縣の東端に位し西は新居郡東北は香川縣三豐郡及徳島縣三好郡に境し南は一帶の山脈を以て高知縣長岡郡土佐郡と境界を分け北は燧洋に面して遙に岡山廣島の二縣に相對す郡内天狗山赤星山鹽塚山別子山等の峰巒重疊互し海岸一帶の地は國道を狹んで僅に平野をなす郡内を區割して三町二十ヶ村とす。

總面積三二、九二三方里の約七割は山林にて耕地面積田、

二千九百十二町米畑四千八百六十町歩計七千七百七十餘町歩なり、氣候中和にして地味比較豊肥にて農事盛大にて林亦繁茂なし戸數一萬三千五百五十餘、人口十萬餘人なり

●川之江町 金生川の河口東岸にありて本郡の舊都たり阿波街道讚岐街道の要衝に當り人烟頗る稠密なり、陸海の交通至便なり町民は多く製綿、製糖、漁業に従事せり。

●三島町 川の江の西一里半の所にあり地は古來烟草の產地として世に知らる明治三十一年町制を布くと同時に川の江町にありし郡衙、警察稅務署等の官署を此地に移し來り爲めに當郡の首都とす、人口約八千を有す多くは製紙業に従事せり。

●三島寺 川の江の南二里金田村金川にあり四國八十八ヶ所の第六十五當の札所なり幽靈山慈尊院と號し聖武天皇御宇行基菩薩の開基にして本尊には弘法大師自作の十一面觀世音を安置し往古は七堂伽藍の巨刹なりしも天正の兵火に罹り爲めに今は當時の俵なきも境内には仁王門、本堂、大師堂、藥師堂等ありて老樹參差として之を圍み頗る幽邃なり諸國より毎夜參籠する者多ければ當寺は毎夜本尊の開扉あり。

仙龍寺

は川の江町の南二里金田村金川にあり四國八十八ヶ所の第六十五當の札所なり幽靈山慈尊院と號し聖武天皇御宇行基菩薩の開基にして本尊には弘法大師自作の十一面觀世音を安置し往古は七堂伽藍の巨刹なりしも天正の兵火に罹り爲めに今は當時の俵なきも境内には仁王門、本堂、大師堂、藥師堂等ありて老樹參差として之を圍み頗る幽邃なり諸國より毎夜參籠する者多ければ當寺は毎夜本尊の開扉あり。

三角寺

は川の江町の南二里金田村金川にあり四國八十八ヶ所の第六十五當の札所なり幽靈山慈尊院と號し聖武天皇御宇行基菩薩の開基にして本尊には弘法大師自作の十一面觀世音を安置し往古は七堂伽藍の巨刹なりしも天正の兵火に罹り爲めに今は當時の俵なきも境内には仁王門、本堂、大師堂、藥師堂等ありて老樹參差として之を圍み頗る幽邃なり諸國より毎夜參籠する者多ければ當寺は毎夜本尊の開扉あり。

仙龍寺

は川の江町の南二里金田村金川にあり四國八十八ヶ所の第六十五當の札所なり幽靈山慈尊院と號し聖武天皇御宇行基菩薩の開基にして本尊には弘法大師自作の十一面觀世音を安置し往古は七堂伽藍の巨刹なりしも天正の兵火に罹り爲めに今は當時の俵なきも境内には仁王門、本堂、大師堂、藥師堂等ありて老樹參差として之を圍み頗る幽邃なり諸國より毎夜參籠する者多ければ當寺は毎夜本尊の開扉あり。

仙龍寺

は川の江町の南二里金田村金川にあり四國八十八ヶ所の第六十五當の札所なり幽靈山慈尊院と號し聖武天皇御宇行基菩薩の開基にして本尊には弘法大師自作の十一面觀世音を安置し往古は七堂伽藍の巨刹なりしも天正の兵火に罹り爲めに今は當時の俵なきも境内には仁王門、本堂、大師堂、藥師堂等ありて老樹參差として之を圍み頗る幽邃なり諸國より毎夜參籠する者多ければ當寺は毎夜本尊の開扉あり。

仙龍寺

は川の江町の南二里金田村金川にあり四國八十八ヶ所の第六十五當の札所なり幽靈山慈尊院と號し聖武天皇御宇行基菩薩の開基にして本尊には弘法大師自作の十一面觀世音を安置し往古は七堂伽藍の巨刹なりしも天正の兵火に罹り爲めに今は當時の俵なきも境内には仁王門、本堂、大師堂、藥師堂等ありて老樹參差として之を圍み頗る幽邃なり諸國より毎夜參籠する者多ければ當寺は毎夜本尊の開扉あり。

仙龍寺

は川の江町の南二里金田村金川にあり四國八十八ヶ所の第六十五當の札所なり幽靈山慈尊院と號し聖武天皇御宇行基菩薩の開基にして本尊には弘法大師自作の十一面觀世音を安置し往古は七堂伽藍の巨刹なりしも天正の兵火に罹り爲めに今は當時の俵なきも境内には仁王門、本堂、大師堂、藥師堂等ありて老樹參差として之を圍み頗る幽邃なり諸國より毎夜參籠する者多ければ當寺は毎夜本尊の開扉あり。

仙龍寺

は川の江町の南二里金田村金川にあり四國八十八ヶ所の第六十五當の札所なり幽靈山慈尊院と號し聖武天皇御宇行基菩薩の開基にして本尊には弘法大師自作の十一面觀世音を安置し往古は七堂伽藍の巨刹なりしも天正の兵火に罹り爲めに今は當時の俵なきも境内には仁王門、本堂、大師堂、藥師堂等ありて老樹參差として之を圍み頗る幽邃なり諸國より毎夜參籠する者多ければ當寺は毎夜本尊の開扉あり。

金光山仙龍寺は眞言宗にして銅山川の西岸の山中にありて堂宇は崖によりて造り頗る見るべくして所在は馬立村なり世の中人が常に稱して奥の院と云ふて居る其の由來を尋ねるに延暦十三年弘法大師二十一歳の御時始めて此地に法道仙人と邂逅し此山の附囑を受け玉い其後鎮護國家の秘教を傳へんが爲め入唐遊され御歸朝の後人皇五十二代、嵯峨天皇の御宇弘仁六年大師六七の厄運に當り再び此の山に躋りて岩窟に息災の護摩壇を築き三七日間厄難消除の秘法を修し遂に金胎兩部の種子蔓荼羅を自ら其窟の岩壁に彫刻し玉ひ猶未代の衆生結縁の爲めにとて御自作の像を安置し且龍潭權現を勸請して擁護の鎮守となし一字の梵刹を御草創あり巧誓願して曰く「將來歩を此の此の山に運んで我形像を拜する輩は我三密の加持力を以て諸の危難及び一切の障を除き四重五逆の重罪を滅じ有縁の淨土に送らんと加之此岩窟の梵文を寫して守護とし受持講供する者は米穀を害する一切の惡蟲を除き五穀成就の大利益を得せしめ玉ふ、蓋當山は大師入定留身の高野山に擬し若縁を近きに結び利益を普及し玉ふ善巧方便なれば古より女人の參詣を遮せざる故に當山を女人の高野四國の奥の院と申傳て四六時中參詣登山者絶る事なく現當二世の兩益を蒙る男女枚擧に遑がない是れ偏に我大師三密の加持力と當山勝地の靈徳なるに由る

三島神社

當寺は諸國より日々參籠する人絶ゆることなければ毎夜本尊の開扉並に説教の修行あり。
清瀧は金光山仙龍寺の境内にあり西北隅に位し本坊より西北隅に上ること四丁餘、懸崖九十有二尺四時更に水絶たることなく實に銀河落下の一大壯觀あり
而して瀧壺の四邊は淺くして廣く巨岩怪石自座の亂列却て一般の奇觀を添ふ加ふるに瀑邊古木老松如鬱として閑雅出多く殊に春秋の兩秀のまきは山色流水に映じて其壯麗響ふるにもなく近縣稀に見る一大名瀑なり、寺傳今去る千有餘年の昔嵯峨天皇の御宇弘仁六年弘法大師四十二才の厄運の年此山に登り來坊岩窟内にて三七日厄除秘法御修行の砌朝な朝な清瀧に登りて水垢離を取り以て身を清められしを以て古人相傳へてキヨメのタキと云ふに此れを清瀧と云ふ
三島神社は三島町にありて當町の氏神なり社格は縣社に列し、條神は大山積命、雷神高山神、上津姫神、下津姫神を合祀す養老四年宇摩大領越智玉澄の勸請せる所にして、古來神領若干を存じ得能彈正少弼通時の二男高倉右京亮越智通雄の子孫世社職たり、社殿は本殿、幣殿、中殿、拜殿其他神門并覆家、神輿庫等あり境内神社は諸山積神社、荒神社、天鈿女社、天滿宮、鹿島神社、大石神社、笑子神社

田島神社、室神社、神明宮、八幡神社あり社後の海濱は八網浦と呼び風景甚だ佳なり

興願寺

三島町に在り、摩尼山普門院と號し宇摩郡中有數の寺にて峨嵋派眞言宗たり。

開募は何人なるか不明なるが承應三年四月快順和尚が住持したるに始れりと當時寺の越源なき爲め本堂の如きは實に見るに忍ばざる程破綻なし居りしが快順和尚が元を修繕したりと傳ふ。

本尊は地藏尊經尼たり、境内には有名な春日の松あり、此の松は郡中第一の古木なるが手入なき爲め漸次枯血せんとせるは遺憾と云ふ可し。





村山神社 津根村字椿森に在り推古帝の二十五年創建、縣社にして社内には古作男女木像七十餘軀を安置す風姿頗る奇なりまた社前の池中に島狀の塚あり

輕太子墓 妻鳥村の春宮山上に在り、封土の高さ一間、上に松樹を植ゆ、太子此の地に流され給ひ、後薨せられ、此の山に葬り奉るといふ、春宮山は高さ八十尺周圍三町餘田圃の中に崛起せる、險阻なる山にして樹木鬱茂し、春宮神社ありて太子の靈を祀る、また此の村の海岸に春宮石と

名づくる石ありて太子の着せたる時、御舟を繋ぎたる遺跡といふ





城山 川ノ江町の海岸に峙つ丘陵にして寛永年間迄は一抑氏の居城たりしも兵亂の爲め焼失し以來廢城となり延元二年三月河野通故の築く所たり佛殿城と云ひ降て足利氏長曾我部氏豊臣氏の配下の居城となり徳川時代一柳直家之れが治府たり





 高松市
可祝旅館
 電話二番



▼客室豐富▲
 ▼寢具清潔▼

▼萬事着實▲
 ▼丁寧親切▲



 御旅館
千島亭
 伊豫宇麻郡三島町
 電話 本店十五番 支店六十五番



▼料理新鮮▲

▼客室清潔▲

【複製許不】
 大正七年三月廿七日印刷納本
 大正七年三月三十日發行
 大阪府北區東梅ヶ枝町
 編輯兼發行 原田幸吉
 人兼印刷人 三宅共樂堂
 印刷所 三宅共樂堂
 大阪府北區上福島中一丁目五〇三
 大阪府北區東梅ヶ枝町
 發行所 永樂社

御 旅 館

芙蓉館

香川縣坂出町

(坂出驛より約二丁)

●●●●
ニ 停
頗 車
ル 場
便 乘
利 場
●●●●

●●●●
料 客
理 室
新 整
鮮 備
●●●●

キサラムヨキ



(口淡)

釀造元 横 笹 商店

振替口座大阪八二〇九番
電話 三十一番

キサラムルマ




(口濃)

第二回香川縣醬油共進會優等賞
香川縣食料品展覽會壹等賞

最近の受賞

昔も 今も



大阪高津表門筋

効能で賣れる

ひまわり

衛兵長藤伊 やくふ七家本

電南七二九 振替阪九七三

効逆上を引下げ便通をよく
能し梅毒其他諸毒を下す

價藥
半週分 丸拾五錢
壹週分 丸參拾五錢
三週分 丸八拾錢
五週分 丸廿拾錢
▲内地八錢 ▲臺灣樽壹拾貳錢
▲鮮支圓

醬油味噌醸造
茶種油香油製造
内外石油直輸入

香川縣坂出町

須崎竹造商店

電話長十八番

洋反太物
足袋商

香川縣坂出町

須崎吳服店

電話八十番

諸和

愛媛縣宇摩郡上分町

種紙

廣平井合名會社

織販

代表社員 平井定次郎

物賣

登雪

愛媛縣宇摩郡上分町

錄美商



東洋晒粉營業部

營業主

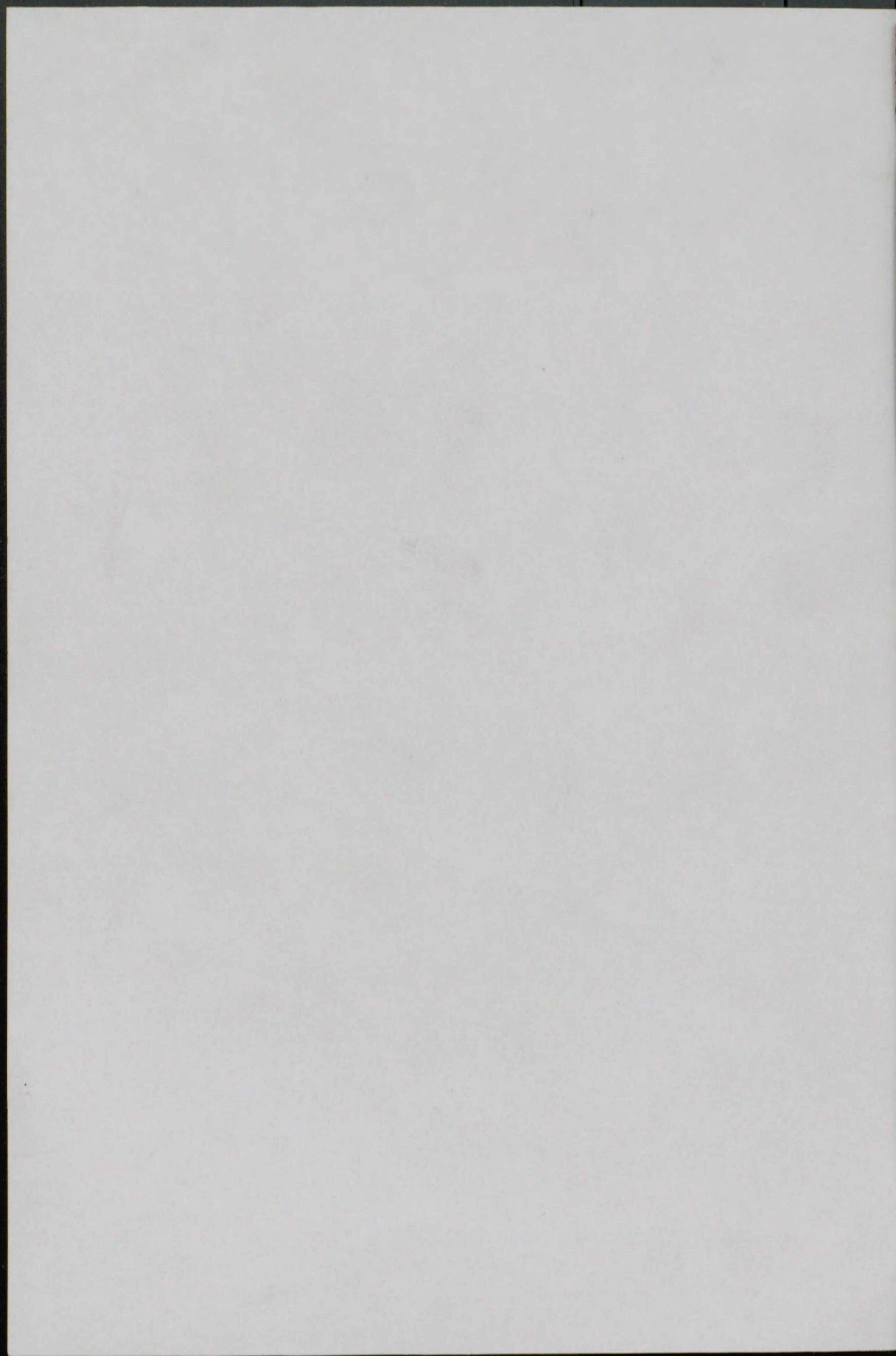
平井宗次郎

標人

工場 愛媛縣宇摩郡川之江町

東洋晒粉製造所

147
2/0



國

圖

書

館

藏